

Maxi Twin



警告

怪我を避けるため、製品を使用する前に必ず本取扱説明書及び付属の文書をよくお読みください。



本取扱説明書を必ずお読み下さい

意匠方針と著作権

® および ™ は Arjo グループ会社に属する商標です。

© Arjo 2022 年。

当社の方針の一つは継続的改善を掲げているため、当社では事前の通知なしに設計・デザインを変更する権利を留保しています。本書の内容の全部あるいは一部を Arjo の同意なしに複製することはできません

目次

はじめに	4
使用目的	5
安全の手順	6
準備	7
部品名称	8
DPS スプレッダーバー	9
ループバー	10
スリング	11
製品の詳細・機能	13
ハンドコントロール	13
持ち上げ	13
シャーシレッグの調整幅	13
キャストブレーキ	14
走行/位置保持用ハンドル	14
電動式スプレッダーバー上の体重計	14
緊急停止ボタン	15
非常口アリング（下降）「リング」	15
電動式スプレッダーバー	16
自動安全スイッチ	16
バッテリー	16
バッテリーインジケータランプ	16
バッテリー充電器	16
電動式スプレッダーバー	17
Maxi Twinの使い方	18
クリップ/ループの取り付け（パッシブスリング）	19
クリップ/ループの取り外し（パッシブスリング）	20
脚クリップ/ループの取り付け（パッシブスリング）	21
入居者の移動 - DPS スプレッダーバー	22
椅子から持ち上げる方法	22
ベッドからの持ち上げ方法	24
床からの持ち上げ方法	26
入居者の移動 - ループスプレッダーバー	28
椅子からの持ち上げ方法	28
ベッドからの持ち上げ方法	29
床からの持ち上げ方法	30
大型ループバーでの持ち上げ方法	30
在宅ケアでの使用	31
バッテリー使用上の注意	33
クリーニングおよび消毒手順	34
お手入れと定期保守・点検	36
トラブルシューティング	40
技術仕様	41
寸法	43
Maxi Twin上のラベル	45
電磁両立性	48
部品とアクセサリ	50

はじめに

Arjo 製品をご購入いただき、ありがとうございます。

Maxi Twin™ 床走行リフトは、病院、介護施設、その他の福祉機器用として開発された高級製品シリーズの一つです。

Arjo 製品の操作とメンテナンスに関しては、弊社にお問い合わせください。

本取扱説明書を最後までお読みください。

Maxi Twin リフトのご使用前に、本取扱説明書を必ずお読みください。本取扱説明書の内容は、製品の適切な操作とメンテナンスに関し非常に重要であり、製品を保護する上で役に立ち、ご満足いただける形で製品をご利用いただけます。本取扱説明書の内容には、安全面で重要な情報も含まれているので、不必要な怪我を避けるためにも必ずよく読んで理解してください。

承認を受けずに行った Arjo 装置の改造は、安全性を損なう恐れがあります。承認を受けずに行った製品の改造が原因で発生した事故、未遂事故、製品不具合について、Arjo は責任を負いません。

予期しない動作や事故の報告

予期しない動作や事故が発生したときは、最寄りの Arjo 代理店にご連絡ください。連絡先の情報は本取扱説明書の最後のページに記載されています。

重大な事象

医療機器もしくは福祉機器に関連して、お客様または患者様に影響する重大な事象が発生した場合、ユーザまたは患者様は、その事象を医療機器製造元あるいは販売元に必ず報告してください。欧州連合では、ユーザは、重大な事象を居住する加盟国の所轄官庁にも報告してください。

サービスおよびサポート

毎年、Arjo 認定の有資格担当者による Maxi Twin の定期点検を実施して、製品の安全性と日常操作動作に問題が無いか確認して下さい。

詳細については最寄りの Arjo 代理店にお問い合わせの上、長期にわたって製品の安全性、信頼性、価値を最大限に引き出せるように、総合的なサポートとサービスプログラムを受けてください。交換部品については、最寄りの Arjo 代理店にお問い合わせください。

サービス代理店では必要な部品を用意しています。

お問い合わせ先情報は本取扱説明書の最終ページに記載されています。

本取扱説明書の定義：

警告

意味：安全上の警告内容の理解不足であったり、警告に従わなかった場合、他人も含めご自身も怪我をする恐れがあります。

注意

意味：手順に従わなかった場合、システム全体あるいは一部に不具合が発生する恐れがあります。

注記

意味：システムまたは製品の正しい使用方法に関する重要な情報です。



意味：メーカー名及び住所。

使用目的

本製品はこれらの安全注意事項に従って使用してください。本製品を使用する方は、本取扱説明書の手順を必ずお読みになり、理解するようにしてください。

不明点がある場合、Arjo 代理店にお問い合わせください。

Maxi Twinは床に設置して使用する床走行リフトです。

本リフトは対象者の持ち上げと移乗用であり、病院、介護施設や自宅、およびその他のヘルスケア施設で使用することを意図しています。本製品は、屋内使用を目的としています。

Maxi Twinは、Maxi Twinで使用できるように開発されたArjo製スリングおよびストレッチャーとのみ使用することを意図しています。

本製品は、適切な訓練を受け、介護環境、常識、手順に関する十分な知識を有する介助者のみが使用できます。Maxi Twinは体重182 kg (400 lbs) までの入居者に対応できます。

Maxi Twinは、以下の状態にある入居者に使用することを意図しています：

- 車椅子に座った患者様
- 自力で身の回りのことができない患者様
- サポートなしに立位することはできず、たとえば身体の一部であっても支えることができない状態
- 多くのケースにおいて、介助者を必要とする状態

あるいは、以下の状態にある入居者に使用できます：

- 消極的である
- ほとんど寝たきりである
- 身体を動かせなかったり、関節が萎縮したりしていることが多い
- 全面的に介助者を必要とする

本製品は、頭部の動作に違和感のある入居者に使用しないでください。

入居者が上記に当てはまらない場合は、別の製品/システムを使用してください。

Maxi Twinでの移乗は、入居者の部屋、共有エリア、浴室で行われますが、シャワーや室外での使用は想定していません。

Maxi Twinは本取扱説明書で指定された用途にのみ使用してください。それ以外の使用は禁止します。

想定製品寿命

本製品は、上記の理由・目的のためだけに使用してください。

本製品の製品想定寿命はおよそ10年です。ただし、バッテリーの保管期間、使用頻度、充電間隔により、バッテリーのサービス寿命は2年から5年になることがあります。

記載された製品寿命とサービス寿命は、取扱説明書に記載しているお手入れと保守・点検が実施されていることを条件としています。

取扱説明書に記載する製品寿命の期間中であっても、損耗の状況によっては、キャスト、ハンドコントロールなどの製品部品の交換が必要になることがあります。

安全の手順

警告

ケガを防ぐために、入居者と本製品の間にある安全な距離があることを確認してください。制御不可能な動きを入居者がしていないか特に注意を払ってください。

警告

落下防止のために、利用者様の体重が使用されている全ての製品あるいは付属品の安全耐荷重よりも軽いことを確認してください。

警告

ケガを防ぐため、本取扱説明書で指定された Arjo スリングのみご使用ください。取扱説明書の指定スリングに従った正しいスリングサイズを選択してください。

警告

危険な状態に陥ることのないように、移動中は入居者の髪の毛、両腕および両足を体に密着させて、指定されたグラブサポートを使用するようにしてください。

警告

入居者の落下や介助者のケガを防ぐために、入居者の体重が完全にベッドや椅子で支えられるようになってから、スリングのクリップを外してください。

警告

製品が傾いて、入居者が落下するのを防ぐため、排水溝や穴、1:50 (1.15°) を超える勾配があるフロアで製品を使用しないでください。

警告

爆発や火災を防止するため、酸素濃度の高い環境、熱源や可燃性の麻酔剤が存在する場所で製品をけっして使用しないでください。

警告

怪我を防ぐため、入居者を一人にしないでください。

警告

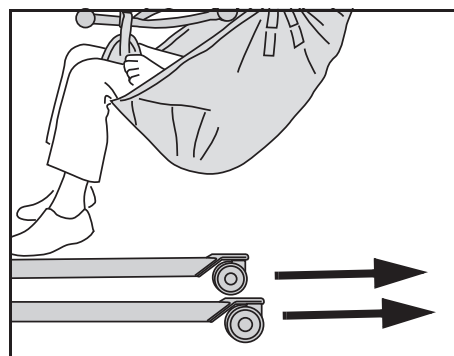
移乗中に患者が落下するのを防ぐために、使用中の機器すべてにブレーキをかけるようにしてください。

注意

湿気のある場所や濡れた場所あるいはシャワーがかかる場所に、*Maxi Twin* と付属品を長期間にわたって放置しないでください。

ケガを避けるため、以下に注意してください。

- 足の血行に悪影響を及ぼすため、入居者は決して *Maxi Twin* リフトで長時間を過ごさないこと。
- 移乗中に *Maxi Twin* リフトを安全な高さに下げると、通常の椅子の高さよりも若干高い程度になります。
- 移動時の入居者の足は、床から離れていること。
- *Maxi Twin* リフトはシャーシレグを平行にして（閉じて）移動すること。



準備

初めて使用するにあたって (8のステップ)

- 1 梱包内容に損傷がないか、目視点検して下さい。製品本体が損傷していたら、運送会社に苦情を申し立ててください。
- 2 梱包材は国内規制に従ってリサイクルして下さい。
- 3 製品の部品がすべて揃っているか確認し、本使用方法の製品説明と照らし合わせて下さい。不足あるいは損傷している部品がある場合、製品を使用しないでください。
- 4 バッテリー充電器を開梱します。コンセントに合ったアダプターを選び、コンセントに差し込みます。
バッテリー充電器取扱説明書をご覧ください。
- 5 バッテリーを充電します。
- 6 34ページのクリーニングおよび消毒手順の説明に従って、製品を消毒してください。
- 7 Maxi Twin リフトを保管するにあたり、乾燥して、換気が良く、直射日光の当たらない場所を確保します。
- 8 取扱説明書(IFU)を保管でき、ユーザーがいつでも参照できる特定の場所を選びます。

注記
サポートとサービスに関する質問は、最寄りの Arjo 代理店にお問い合わせください。

毎回の使用にあたっての確認事項 (4つのステップ)

- 1 製品の部品がすべて揃っているかチェックします。8ページの部品名称と比較します。
- 2 使用前にスリングを事前に検査します。不足あるいは損傷している部品がある場合、製品を使用しないでください。

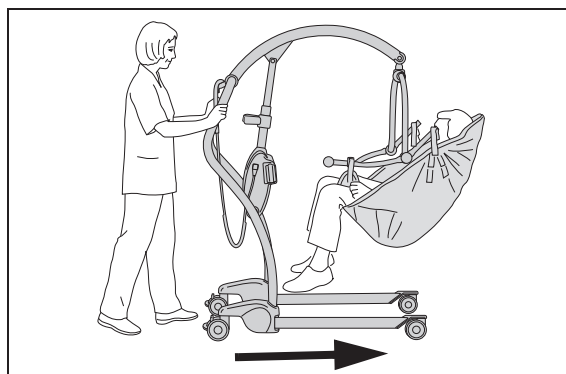
警告

二次感染を防ぐために、常に本取扱説明書の消毒の手順に従ってください。

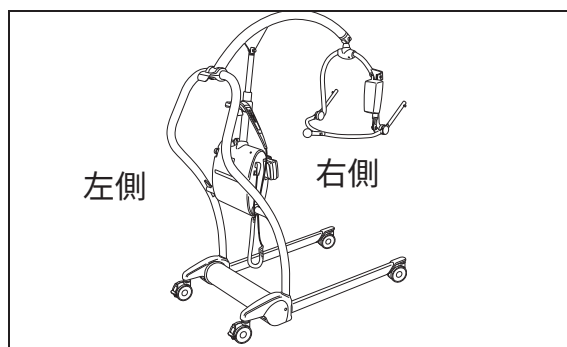
- 4 脚でキックする癖のある入居者には、スリングをクロスしたレッグクリップに取り付けます。これにより、入居者自らのキックでクリップが外れて落下しないよう入居者を保護できます。21ページの脚クリップ/ループの取り付け(パッシブスリング)のセクションを参照してください。
- 5 アクチュエータカバーの裏には可動部品があります。カバーが損傷した場合、リフトを使用しないでください。Arjo サービス技術者までご連絡ください。

Maxi Twin の使用方向

移動中の進行方向は、下図に従ってください。



Maxi Twin リフトの左右は、イラストに示すとおりです。

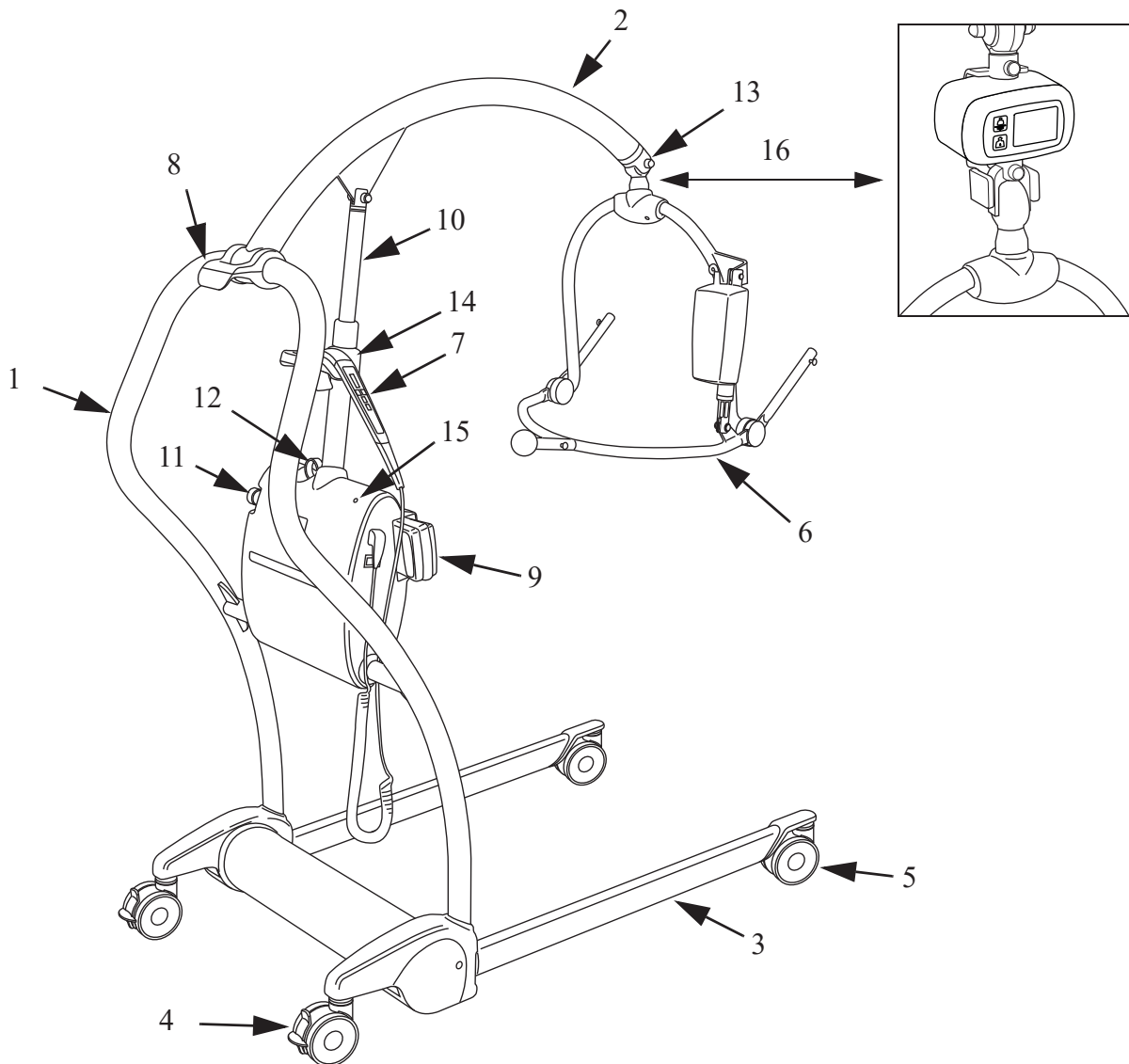


部品名称

- 1 マスト/リフト誘導ハンドル
- 2 ジブ
- 3 調節可能なシャーシレッグ
- 4 ブレーキ付きキャスター（後部）
- 5 ブレーキなしキャスター（フロント）
- 6 電動 DPS スプレッダーバー
- 7 ハンドコントロール
- 8 ハンドコントロール用ハングポイント
- 9 バッテリー
- 10 メインリフトアクチュエータ
- 11 非常停止ボタン
- 12 非常ロアリング（下降）「リング」
- 13 ピボットボルト
- 14 ハンドコントロールホルダー
- 15 バッテリーインジケータランプ
- 16 体重計（オプション）

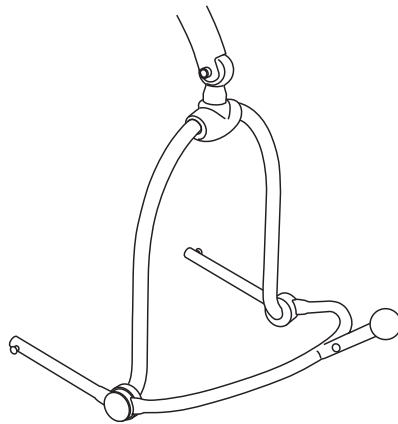


製品全体：
BF タイプ
適用部品：EN 60601-1 に基づく
感電保護。

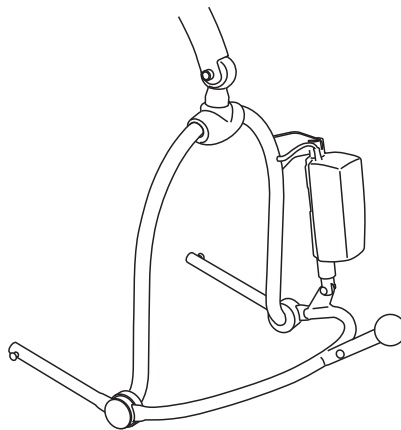


DPS スプレッダーバー

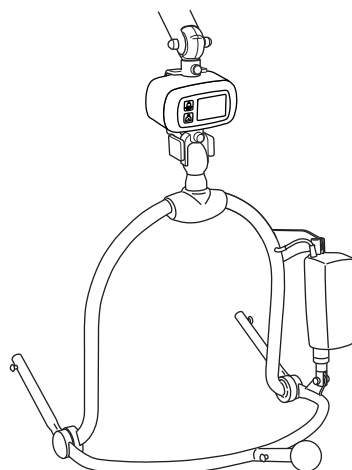
手動 DPS（自動位置保持装置）スプレッダーバー



電動 DPS スプレッダーバー

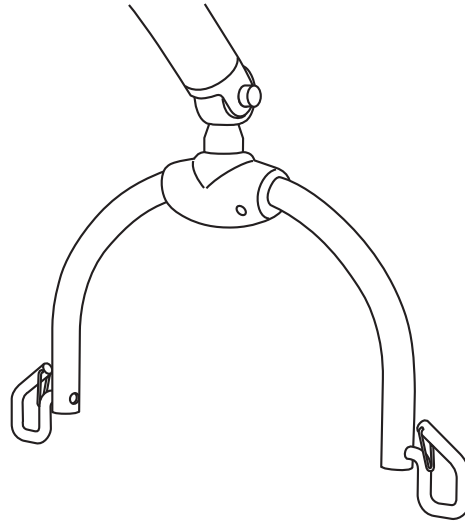


体重計付き電動 DPS スプレッダーバー

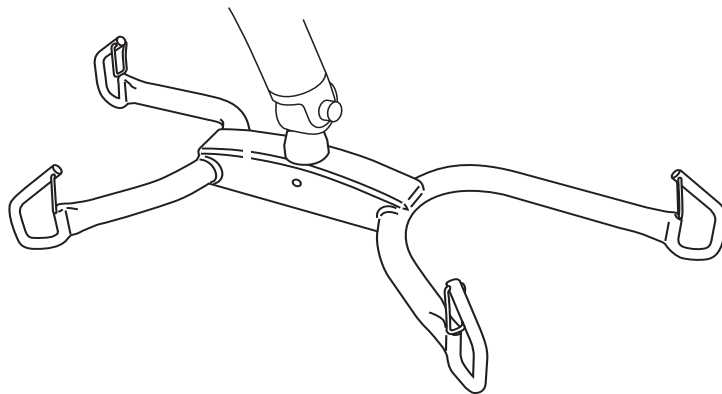


ループバー

2点式ループバー（小型および中型）



4点式ループバー（大型）



スリング

スリングサイズの標識は、サイズ参照用としてスプレッド/ループバーに付いています。（「リフト上の標識」セクションを参照）。

スリングのサイズを選択する際は、パンプクリップスリング取扱説明書とスリングの説明を参照してください。

警告

落下防止のために、利用者様の体重が使用されている全ての製品あるいは付属品の安全耐荷重よりも軽いことを確認してください。

警告

入居者の落下や介助者のケガを防ぐために、入居者の体重が完全にベッドや椅子で支えられるようになってから、スリングのクリップを外してください。

警告

ケガを防ぐため、本取扱説明書で指定された Arjo スリングのみご使用ください。取扱説明書の指定スリングに従った正しいスリングサイズを選択してください。

警告

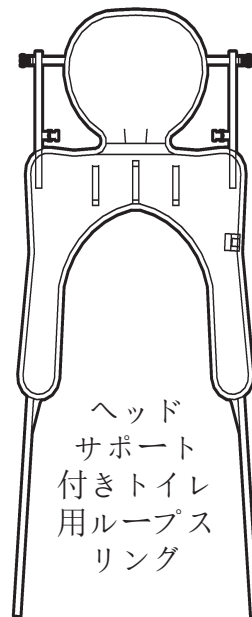
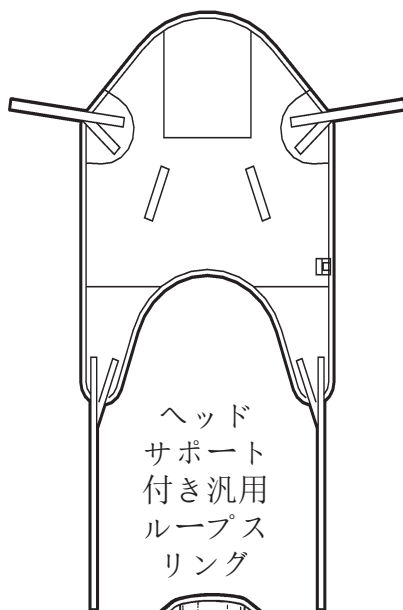
危険な状態に陥ることのないように、移動中は入居者の髪の毛、両腕および両足を体に密着させて、指定されたグラブサポートを使用するようにしてください。

注記

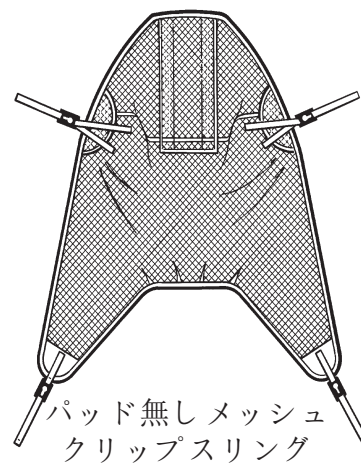
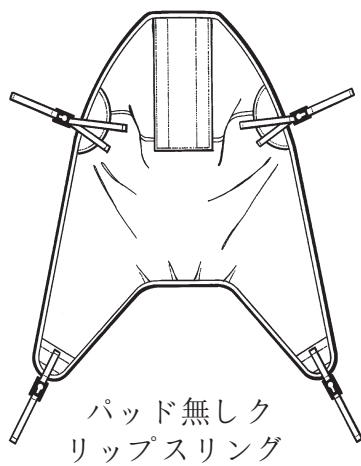
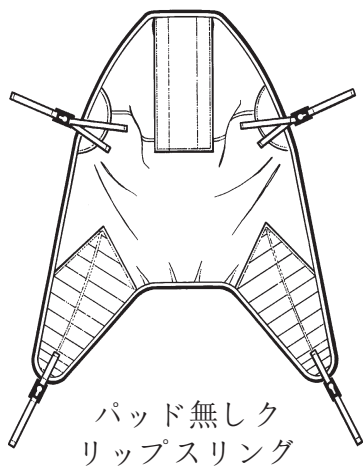
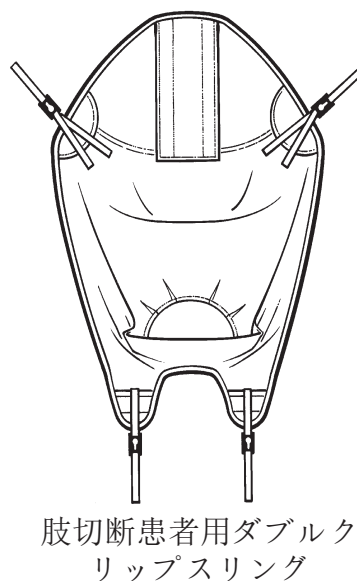
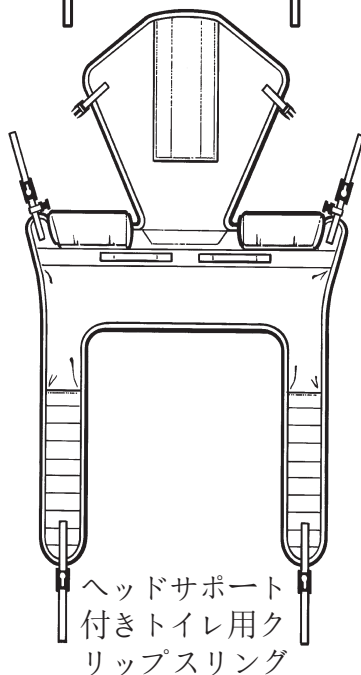
Arjo Slings および Flites（使い捨てスリング）を Maxi Twin に使用する際は、ご使用前に必ず取扱説明書を参照してください。

Maxi Twin リフトに使用可能な、Arjo 標準スリングの形状

ループスプレッダーバー
用ループスリングの例

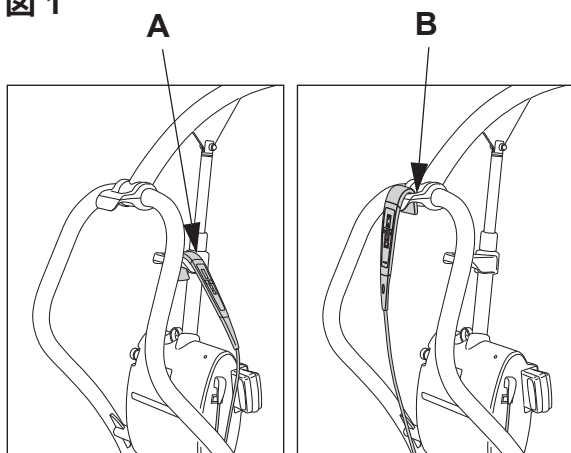


DPS スプレッダーバー
用クリップスリングの例



製品の詳細・機能

図 1



ハンドコントロール

注意

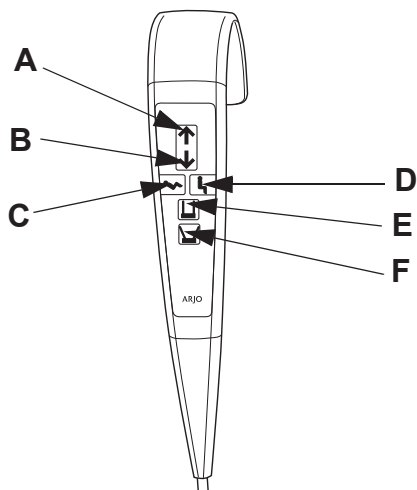
ハンドコントロールを水中に落とさないこと。

ハンドコントロールは、取り付けが簡単な一体型フックです。使用していない時は、マスト上のハンクポイント(B)、またはメインリフトアクチュエータにあるハンドコントロールホルダー(A)にハンドコントロールを引っ掛けて、いつでも使用できるように保管できます。(図1参照)

ハンドコントロールのフックを外し、手に持ちます:

- ボタン(A)を押しジブを上げます。(図2参照)
- ボタン(B)を押してジブを下げます。(図2参照)
- ボタン(C)を押してリクライニングポジションにします(電動式スプレッダーバー専用)。(図2参照)
- ボタン(D)を押して座位ポジションにします(電動式スプレッダーバー専用)。(図2参照)
- ボタン(E)を押して、シャーシレッグを閉じます。(図2参照)
- ボタン(F)を押して、シャーシレッグを開きます。(図2参照)

図 2



持ち上げ

電動式アクチュエータで、上昇/下降を行います。

シャーシレッグの調整幅

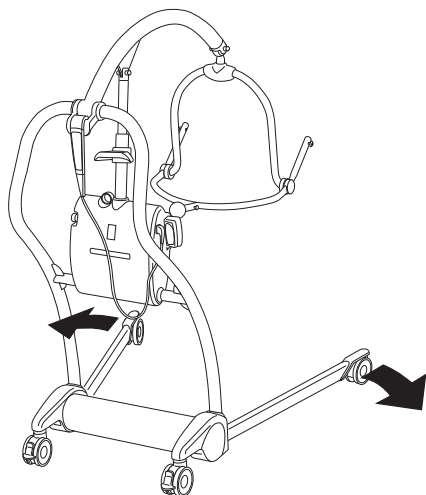
シャーシレッグは任意の幅で開くことができます。

ハンドコントロールの「シャーシレッグ部開放」ボタンを選択して、希望の幅になるまで押し続けます。

閉じるには、「シャーシレッグ部閉鎖」ボタンを押します。ボタンから指を放すと、動きが止まってシャーシレッグがその状態を保ちます。

(図3参照)

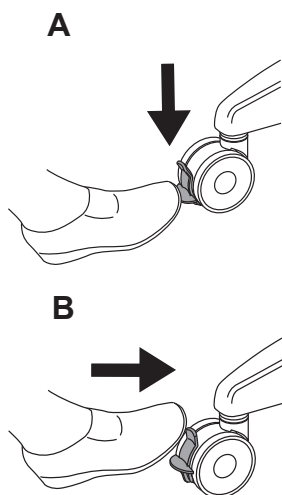
図 3



注記

電動式シャーシレッグを開閉する場合、シャーシレッグが動く方向に人を立たせないように注意してください。

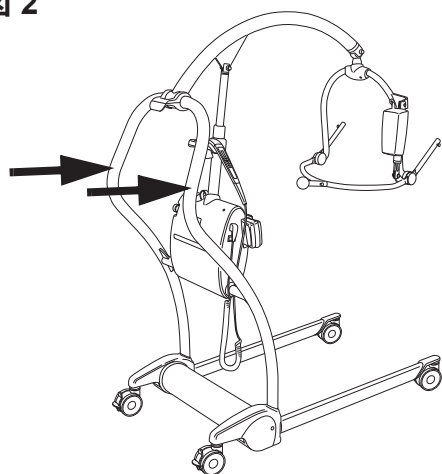
図 1



キャスターブレーキ

シャーシ後部キャスターにはブレーキがついており、足で簡単に操作が出来て *Maxi Twin* リフトを移乗可能な状態にする事ができます。イラストのようにブレーキをかけて (A) およびブレーキを解放 (B) します。両キャスターのブレーキが確実にかかるようにします。(図 1 参照)

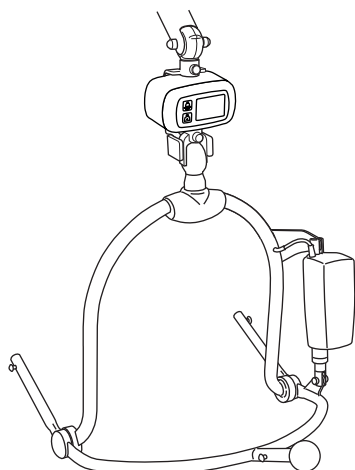
図 2



走行 / 位置保持用ハンドル

走行用ハンドルを用い、*Maxi Twin* リフトを押し位置決めします。(図 2 参照)

図 3

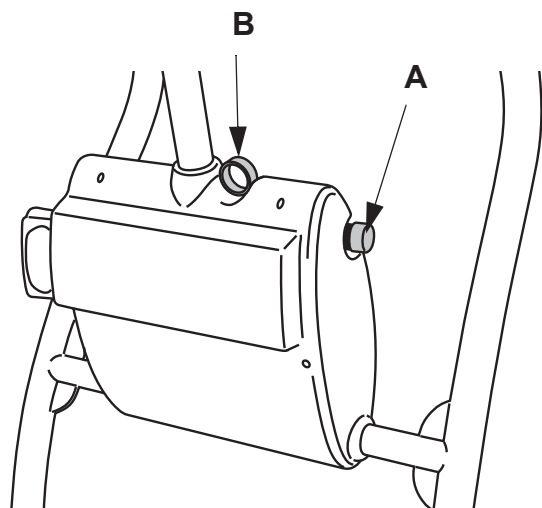


電動式スプレッダーバー上の体重計

Maxi Twin リフト電動式スプレッダーバーには体重計を付けることができます。体重計取扱説明書を参照してください。

(図 3 参照)

図 1



緊急停止ボタン

非常時の場合、直ちに電気で動く物を停止する必要があるため、（ハンドコントロールボタンから指を放すという方法ではなく）メインリフトアクチュエータカバーの横にある「非常停止ボタン」(A)を押します（イラストを参照）。（図1を参照）

非常停止ボタンを押したら、電源を復帰させる前にリセットする必要があります。

緊急停止機能をリセットするには、赤い緊急停止ボタンが元の状態に戻るまで時計方向に1/8回転します。

非常ロアリング（下降）「リング」

警告

ケガを防ぐために、通常の下降が不可能な場合にのみ緊急降下を使用してください。降下中は最大限の注意を払ってください。

緊急降下機能は、*Maxi Twin* リフトに2 kg (4.4 lbs) を超える荷重がかかっている場合にのみ作動します。メインコントロールが故障した場合に使用します。

非常ロアリング「リング」(B)はメインリフトアクチュエータハウジングの上部にあり、緑色と白色の識別ラベルがコントロール近くに貼り付けてあります。非常ロアリングリングを引っ張り上げて操作し、使用中にコントロールを解放し、下降を停止させます。（図1参照）

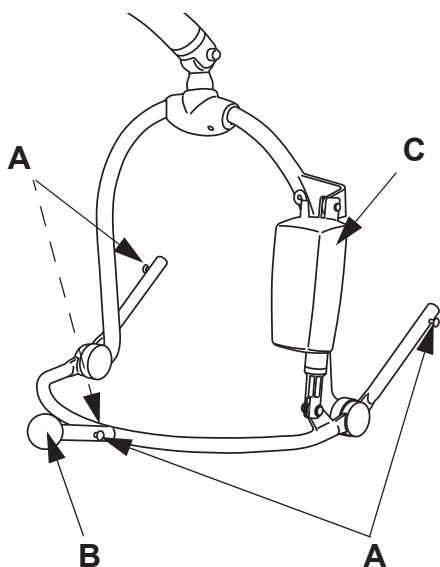
注記

内部摩擦のため、入居者の体重によって降下速度が変動します。降下速度によっては、ご自身でジブを引き下げ、下降機能をアシストすることができます。

注記

非常ロアリングは重要な安全機能として最優先されません。ハンドコントロールが作動しない場合にのみ使用してください。

図 1



電動式スプレッダーバー

4つのスリング取付ラグ (A) により、スリングのクリップを取り付けることができます。

回転式位置保持用ハンドル (B) により、入所者を横向きにもできます。

電動式スプレッダーバー (C) はハンドコントロール上で操作できます。入居者はもたれたり、座ったりできるようになります。(図 1 参照)

自動安全スイッチ

自動安全停止機能は、介助者によって制御されるものではなく、リフト電子機器にその機能が埋め込まれています。

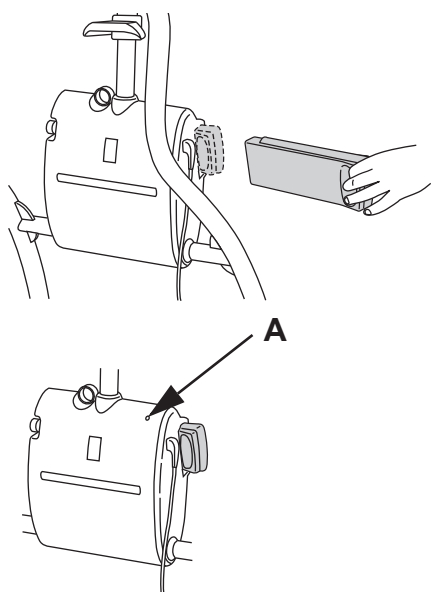
機能 I:

リフトの昇降に何らかの問題が生じると、自動安全停止機能によりその動作は停止します。ハンドコントロールの up (上昇) /down (下降) ボタンを開放します。

機能 II:

安全耐過重の体重より重い入居者により、リフトが誤って過負荷になった場合、自動安全停止は自動的に作動します。この場合、ハンドコントロールの up (上昇) ボタンを押すのをやめてください。down (下降) ボタンを押して入居者を下降させてから、入居者をリフトから降ろしてください。

図 1



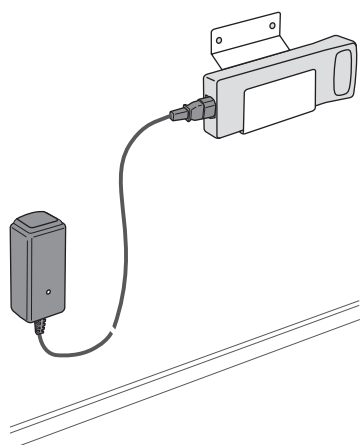
バッテリー

バッテリーは、リフトアクチュエータハウジングの片側にあります。(図 1 参照)

注記

バッテリーは、リフトに対して端を上向きにした場合のみリフトへ正確に装着できます。

図 2



バッテリーインジケータランプ

バッテリーの充電が必要になると、ブザー音が鳴って低バッテリー表示器 (A) が点滅します。介助者はリフト移乗を完了させてください。(図 1 参照)

バッテリー充電器

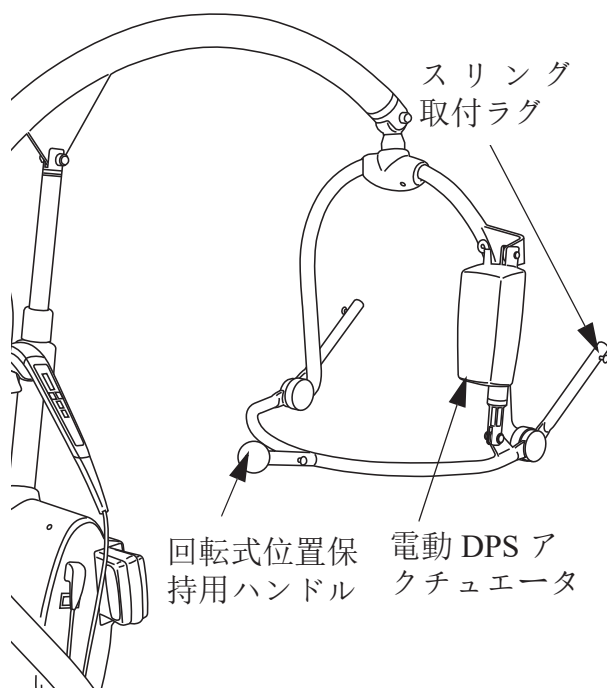
機種 No.:

NEA 8000

(図 2 参照)

電動式スプレッダーバー

図 1



DPS = Dynamic Positioning System
(ダイナミックポジションシステム)

電動 DPS スプレッダーバー (装備されている場合) (2 ステップ)

お使いのリフトに電動スプレッダーバーが付いている場合、非電動スプレッダーバーと同様の使用方法が適用されます。

- 1 基本的な差は、電動 DPS スプレッダーバーでは入居者の位置を操作する際に介助者の身体的な負担が最小限ですむという点です。電動式スプレッダーバーの回転は手動で、手動式スプレッダーバーと同様の操作になります。(図 1 参照)

警告

落下防止のために、利用者様の体重が使用されている全ての製品あるいは付属品の安全耐荷重よりも軽いことを確認してください。

電動式スプレッダーバーには防水加工が施されており、湿潤環境用機器として Arjo によってラベル分類されています。このウォーターラベルマークは、スプレッダーバーとスリングの下部をお風呂の水につけたり、シャワー内で使用しても良いということを意味します。

注意

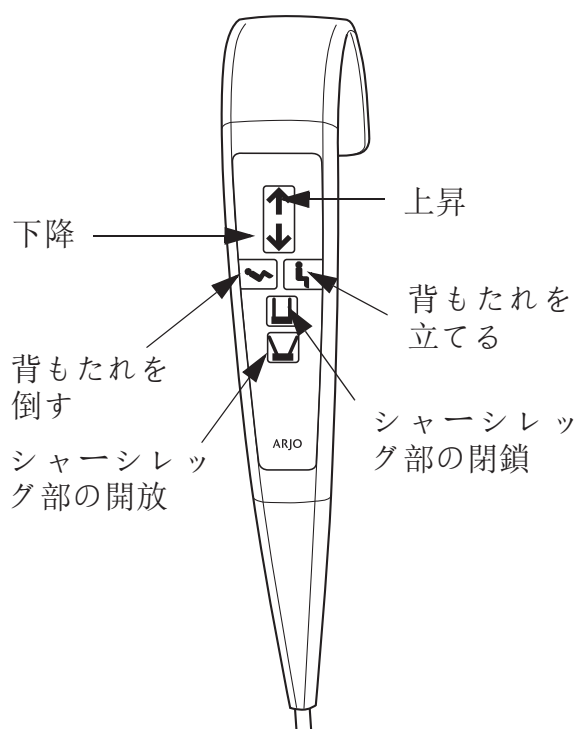
電動式スプレッダーバーの一部を構成する電動アクチュエータには防水機能が無いため、水をかけたり、水に浸漬したりしないでください。最大水位は、スプレッダーバーの側面に付いている水位マークで示されます。

- 2 入居者を位置決めするために、ハンドコントロールのボタンを押して、電動式スプレッダーバーを移動します。押されたボタンを放すと、動作は停止します。動作が停止されると直ちに、スプレッダーバーは適切な位置で停止します。(図 2 参照)

警告

身体や物が挟まったり、衝突したりするのを防ぐために、移乗する経路に障害物がないことを確認してください。

図 2



Maxi Twin の使い方

入居者を *Maxi Twin* に移乗させる前に、以下をご確認ください：

- 使用の前に、バッテリーパックが完全に充電されている。バッテリーパックを充電器から取り外し、それをバッテリー開口部へ挿入する際は、アーチ形になっているバッテリー上部を上に向けること。自動的に電気接続。
- *Maxi Twin* リフトを使用する際、あらゆる持ち上げ動作手順を対象にした種類とサイズのスリングを簡単に選択できる。
- 可能であれば、正面から入居者に近づく。
- 必要に応じて、シャーシレッグを開いて椅子や車椅子の周囲を回る。

警告

危険な状態に陥ることのないように、移動中は入居者の髪の毛、両腕および両足を体に密着させて、指定されたグラブサポートを使用するようにしてください。

電動式シャーシレッグ部

ハンドコントロールの適切なボタンで、ご希望の幅になるまで押し続けます。閉じるには、シャーシレッグ部閉鎖ボタンを押します。ボタンから手を離すと、シャーシ脚部の開閉動作は停止します。

警告

危険な状態に陥ることのないように、移動中は入居者の髪の毛、両腕および両足を体に密着させて、指定されたグラブサポートを使用するようにしてください。

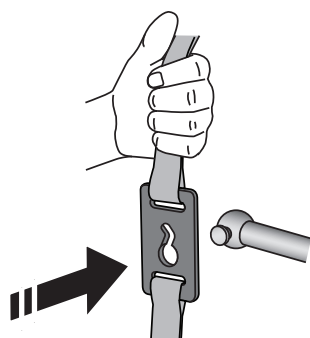
ブレーキをいつ使用するか

スリングによって支えられている入居者を持ち上げたり、下降させたりしているときは、ブレーキを使用する必要はありません。これにより、リフトを入居者の重心に近い正しい位置に移動することが可能となります。

ただし、入居者を床から持ち上げる際、ブレーキを使用することを推奨します。これにより、危害やケガを引き起こす恐れがある *Maxi Twin* リフトの異常なあるいは偶発的な動きを防止できます。

クリップ/ループの取り付け（パッシブスリング）

図 1

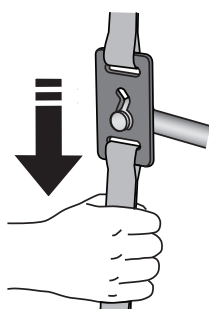


クリップスリング（3ステップ）

詳細情報については、スリングの取扱説明書をご覧ください。

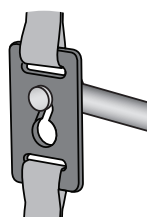
- 1 スプレッダーバーフックにクリップを取り付けます。（図 1 参照）

図 2



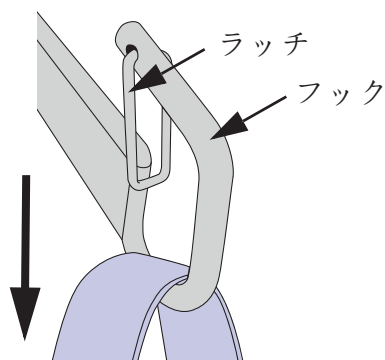
- 2 ストラップを下に引っ張ります。（図 2 参照）

図 3



- 3 全てのラグがクリップの上部にロックされていて、ストラップがクリップとスプレッダーバーの間に挟まっていないことを確認してください。（図 3 参照）

図 4



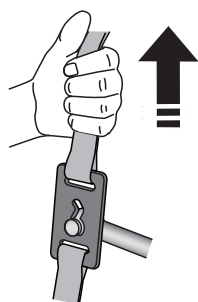
ループスリング（3ステップ）

イラストは、ラッチ付きフックの一例です。スプレッダーバーあるいはストレッチャーフレームは異なる形状であるかもしれません。

- 1 ループをスプリング式ラッチにかけます。
- 2 ループを下に引っ張ってラップを開きます。
- 3 ループが完全にフック内にある状態でスプリング式ラッチが閉じていることを確認してください。（図 4 参照）

クリップ/ループの取り外し (パッシブスリング)

図 1

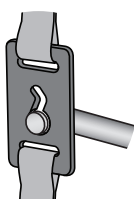


クリップスリング (3 ステップ)

詳細情報については、スリングの取扱説明書をご覧ください。

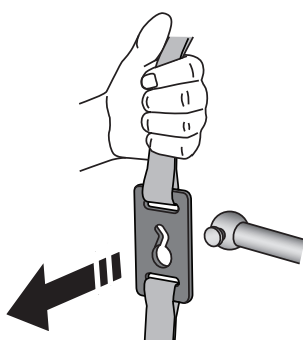
1 ストラップを上引っ張ります。(図 1 参照)

図 2



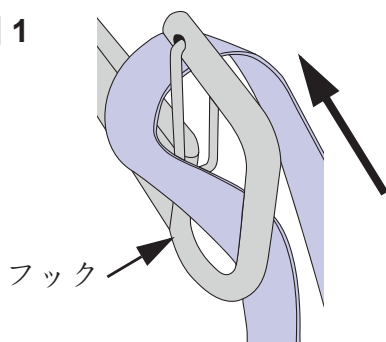
2 フックがクリップの下部にあり、ロック解除されていることを確認してください。(図 2 参照)

図 3



3 クリップを外します。(図 3 参照)

図 1



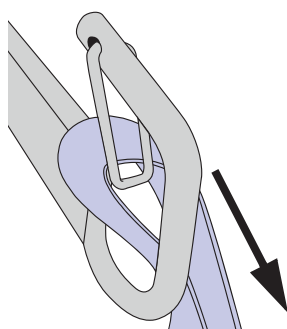
ループスリング (2 ステップ)

イラストは、ラッチ付きフックの一例です。スプレッダーバーあるいはストレッチャーフレームは異なる形状であるかもしれません。

方法 1

1 ループの片方をフックとスプリング式ラッチ越しに引っ張ります。(図 1 参照)

図 2



2 ループを下引っ張ります。(図 2 参照)

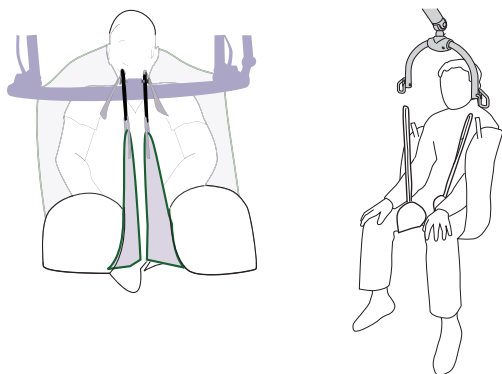
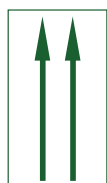
方法 2

1 スプリング式ラッチを押して開きます。

2 ループを外します。

脚クリップ / ループの取り付け (パッシブスリング)

図 1



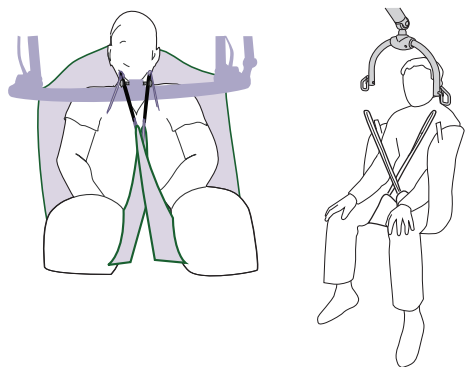
スプレッダーバー 2点式ループバー

ストレートレッグ取付 (2ステップ)

ほとんどの入居者に対して、レッグクリップ / ループのストレート取付を使用することを推奨します。

- 1 レッグ部ストラップを真っ直ぐに保ちます。
- 2 レッグ部ストラップが垂直に位置するように、脚クリップ / ループを取り付けます。(図1参照)

図 2



スプレッダーバー 2点式ループバー

クロスレッグ取付 (2ステップ)

脚でキックする癖のある入所者には、クリップ / ループのクロスレッグ取付を使用してください。これにより、キックによってレッグクリップ / ループが外れるのを防止して、入居者をケガから守ることができます。この方式により脚は別々に保持されるため、洗浄、トイレ等へのアクセスが容易になります。この方式は、特殊な状態にある肢切断患者や入居者のサポートにも有効です。

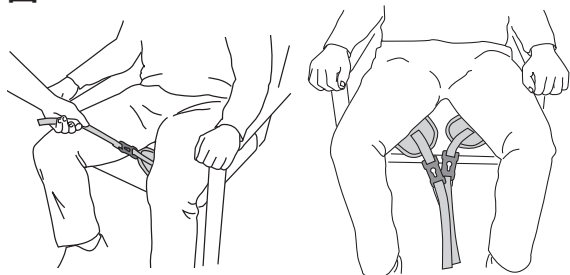
- 1 スリングの脚部ストラップをクロスさせます。(図2参照)
- 2 クリップをラグに取り付けます。

入居者の移動 - DPS スプレッダーバー

警告

危険な状態に陥ることのないように、移動中は入居者の髪の毛、両腕および両足を体に密着させて、指定されたグラブサポートを使用するようにしてください。

図 1



警告

入居者や介助者の足が挟まらないように、あらゆる障害物との間に十分な距離をとってください。

図 2

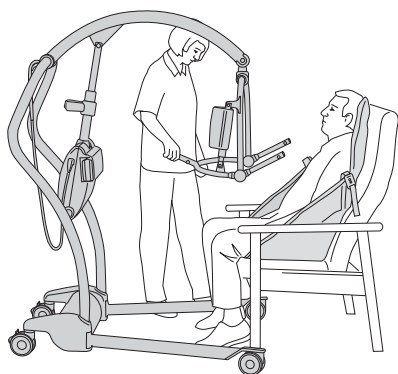
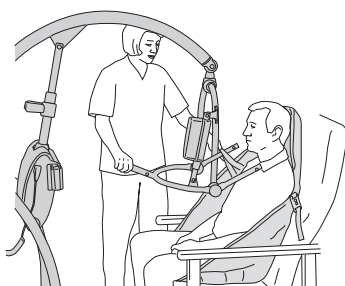
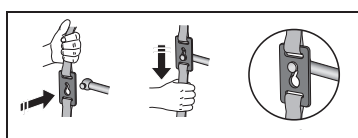


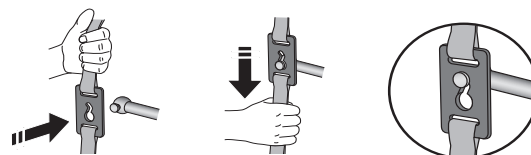
図 3



椅子から持ち上げる方法 (7ステップ)

- 1 スリングを入居者の周りにかけて背中を覆うようにし、ヘッドサポートが頭部の後ろに来るようにします。患者の大腿部の下にある脚部ストラップを引っ張り、位置調整します。脚部ストラップは大腿部の下およびその間にまわす必要があります。(図1を参照)
- 2 スプレッダーバーの位置保持用ハンドルが入居者の反対方向に向いていることを確認してください。スプレッダーバーの幅広部が、肩の高さかまたはその僅か下の高さにある必要があります。スリングショルダークリップをスプレッダーバーに取り付けられる位置にまで *Maxi Twin* リフトを近づけてください。(図2参照)
- 3 *Maxi Twin* リフトの位置を固定したら、ショルダーストラップクリップをスプレッダーバーのラグに取り付けます。ラグがクリップに正しく取り付けられるよう、クリップストラップを下に引っ張ります。(図3参照)

注記



シャーシの後部キャスターにはブレーキがついており、つま先で操作できます。この段階では、キャスターブレーキをかけないでください。持ち上げる際、入居者の位置が重心に来るように調整されます。

次のページへ

図 4



- 4 スプレッダーバーの位置保持用ハンドルを押し下げて、脚部ストラップクリップを取付けます。ラグがクリップに正しく取り付けられるよう、クリップストラップを下に引っ張ります。(図 4 参照)

必要に応じて、ハンドコントロールでスプレッダーバーを下げてください。入居者に向かって降ろさないよう注意してください。そのような場合はハンドコントロールのボタンを押すのをやめてください。

注記

リフトまたは下降の際にハンドコントロールボタンから手を離すと、電動の動作は直ちに停止します。

図 5

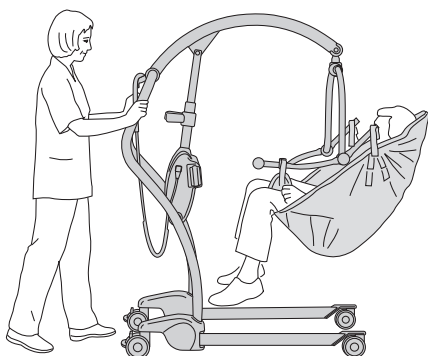


- 5 **警告**

入居者の落下を防止するため、持ち上げの開始前に、スリングのクリップあるいはループがしっかりと固定されていることを確認してください。

ハンドコントロールを操作して入居者を持ち上げ、椅子からリフトを離します。患者がヘッドサポート付きスリングの中でもたれかかった状態になるまで位置保持用ハンドルを慎重に持ち上げます。これは、脚部ストラップによって大腿部に加わる圧力を軽減するので、移乗に最も適した体位といえます。リクライニング角度は、安心感が得られない患者が快適に感じられるよう調節することもできます。(図 5 参照)

図 6



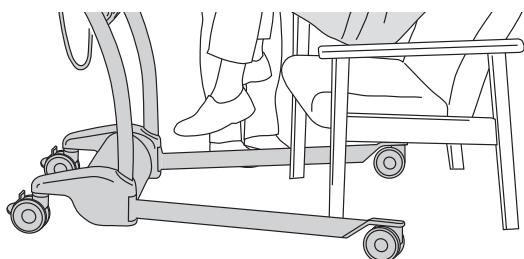
- 6 移乗の前には、入居者が通常の椅子の高さで介助者の方を向くように回転します。これにより、自信や安心感が得られ、Maxi Twin リフトの安定性も改善します。(図 6 を参照)

- 7 ブレーキをかけていた場合は、入居者を移動させる前にブレーキを解除します。シャーシのレッグ部を閉じて、移動作業を実施してください。

入居者を椅子に戻す場合 - またはベッドから椅子に移乗する場合、以下のようにします。

椅子に戻す際は、リフト脚が椅子の脚 / ホイール周辺にあることを確認してください。(図 7 参照)

図 7

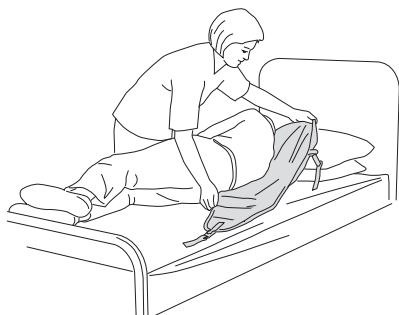


入所者を椅子に配置するには、リフトハンドルを使用し、スリングは引っ張らないでください。入所者をスリングに懸架する際は、その重心が常に安定するよう心がけてください。(図 5 参照)

入所者を下ろす場合はハンドコントロールを使用してください。

持ち上げるのに必要以上の労力をかけないために、位置保持用ハンドルを押して患者を良好な座位に位置します。下降動作を急に行うと、入居者の頭が前方に振れる可能性がありますので、注意してください。

図 1



ベッドからの持ち上げ方法

(10 ステップ)

ベッドから入居者を持ち上げる前に、*Maxi Twin* リフトのシャーシレグが使えるだけのスペースがあるか確認してください。

- 1 入居者の下にスリングを敷きます。入居者を手元に横転させ、スリング（吊り具）を半分に畳んで入居者/患者の後背部に配置します。（図 1 参照）

2 代替方法 1

患者を横転させて元に戻った時にスリングの中心になるようにスリングを位置決めします。スリング（吊り具）のヘッドサポート部が入居者の首にあたることを点検確認します。（図 2 参照）

注記

入居者の下にある折り畳んだスリングを出すには、反対方向に入居者の向きを回転させて、スリングを引き出します。

代替方法 2 座位になるよう起こし上げて入居者を持ち上げることができます。前のセクションに記載されている通り、スリングを配置します 22 ページの椅子から持ち上げる方法。

3 警告

ケガを防ぐために、入居者と本製品の間には安全な距離があることを確認してください。制御不可能な動きを入居者がしていないか特に注意を払ってください。

スプレッダーバーの開口側を入居者の胸部に向けて、ベッドに近づきます。幅の調節が可能なシャーシを使うと、ベッドの脚などの障害物を回避しながら操作できます。（図 3 参照）

- 4 スプレッダーバーが患者の真上および中央に位置するよう *Maxi Twin* リフトを配置します。肩の取付ラグをスリングのショルダーストラップクリップに接続できるように、位置保持用ハンドルを使ってスプレッダーバーを傾けます。（図 4 参照）

- 5 脚部ストラップは大腿部の下に回してから取り付けます。一度に片脚ずつ持ち上げなくてはならない場合もあります。ハンドコントロールで、若干スプレッダーバーを下げる必要があります。スリングの脚部ストラップが取り付けられる位置まで、位置保持用ハンドルを押し下げます

図 2



図 3

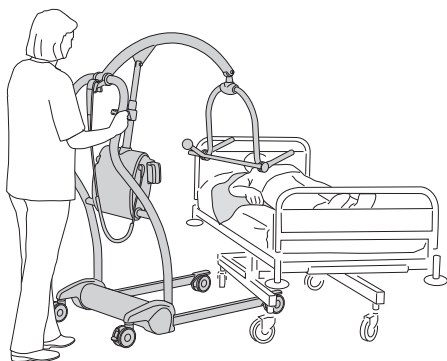
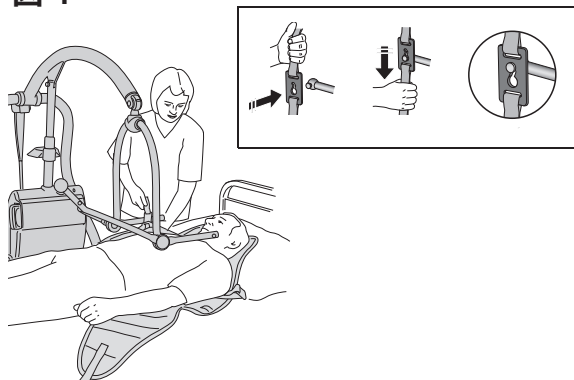


図 4



次のページへ

図 5



6 **警告**

入居者の落下を防止するため、持ち上げの開始前に、スリングのクリップあるいはループがしっかりと固定されていることを確認してください。

ベッドから患者を持ち上げる場合、介助者によっては最初に脚部ストラップを取り付けることを好む場合があります。これは特に入居者/患者の大腿部が大きい場合です。この場合、腰と膝を最大限に曲げて持ち上げ、脚部ストラップクリップを付けてから、肩の方向にスプレッダーバーを傾けて接続します。
(図 5 参照)

7 **警告**

入居者の落下を防止するため、持ち上げの開始前に、スリングのクリップあるいはループがしっかりと固定されていることを確認してください。

ハンドコントロールを使って入居者を持ち上げて、移乗の前に快適な位置に調節します。スリングとヘッドサポートは、一人の介助者が他のサポートなしで持ち上げ機能を完了できるように特別にデザインされています。

8 **警告**

入居者の落下や介助者のケガを防ぐために、入居者の体重が完全にベッドや椅子で支えられるようになってから、スリングのクリップを外してください。

ベッドに戻す際は、リフトがベッドに対して垂直であることを確認してください。(図 6 を参照)
入居者をベッドに配置するには、リフトハンドルを使用し、スリングは引っ張らないでください。入所者をスリングに懸架する際は、その重心が常に安定するよう心がけてください。
入所者を下ろすにはハンドコントロールを使用してください。(図 7 参照)

図 6

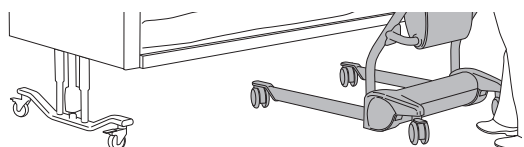
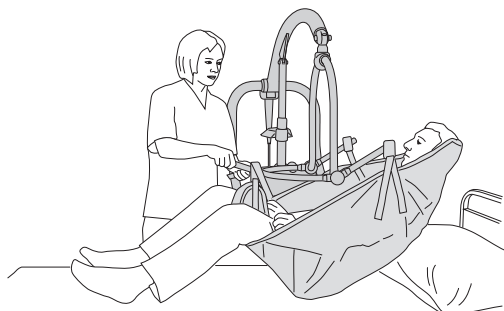


図 7

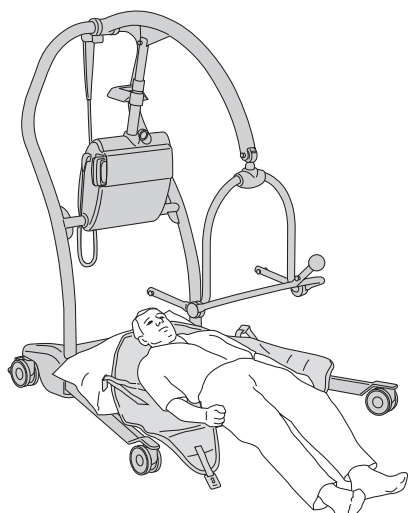


9 **警告**

入居者や介助者の足が挟まらないように、あらゆる障害物との間に十分な距離をとってください。

10 入居者からスリングを外す前に、Maxi Twin リフトを移動してください。患者を椅子に移動する際は、22 ページの椅子から持ち上げる方法のセクションを参照してください。

図 1



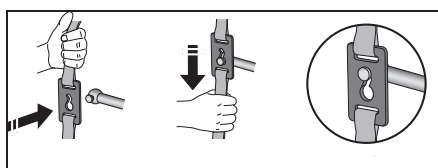
床からの持ち上げ方法 (7ステップ)

警告

入居者や介助者の足が挟まらないように、あらゆる障害物との間に十分な距離をとってください。

- 1 入居者の体を回転させたり座位にしたりして、スリングを入居者の回りにかけます。環境、スペースおよび/または入居者の位置等によって、シャーシを開いた状態で入居者に近づきます。必要に応じてシャーシレグを開きます。(図1参照)
- 2 快適になるように、入居者の頭部と肩に枕を敷くこともあります。スリングをスプレッダーバーに接続する際、これは必ずしも必要ではありません。
- 3 スプレッダーバーの開いた側を入居者の肩の方向に向けて、ショルダーストラップクリップを取り付けます。(図2参照)

図 2



警告

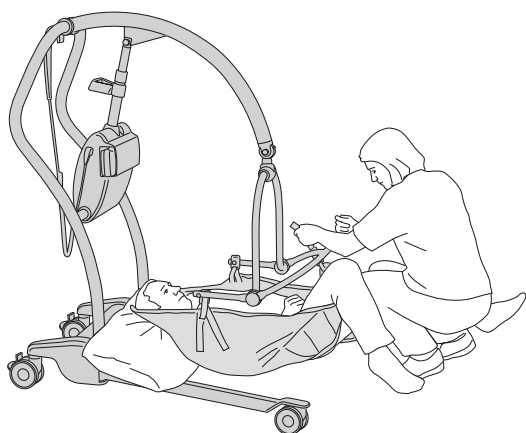
入居者の落下を防止するため、持ち上げの開始前に、スリングのクリップあるいはループがしっかりと固定されていることを確認してください。

取り付けが終了したら、脚部ストラップクリップを接続できるよう腰と膝を最大限に曲げて持ち上げ、位置保持用ハンドルを押し下げます。入居者の頭部と肩が若干上がります。(図3参照)

注意

スリングが *Maxi Twin* の脚にまとわり付いたり、引っかかったりしていないことを確認してください。これにより、持ち上げている間にスプレッダーバーが損傷することがあります。

図 3



次のページへ

- 5 床から患者を持ち上げる場合、介助者によっては最初に脚部ストラップを接続することを好む場合があります。これは特に非常に大柄の入居者でその大腿部が大きい場合に適用されます。この場合、臀部を持ち上げ、膝を最大に屈曲させた状態で最初に脚部ストラップを取り付けます。肩の方向にスプレッダーバーを傾けて接続します。
- 6 すべてのストラップが適切に接続された時点で、入居者を床から上昇させます。頭部をサポートすると、入居者は快適で安定した姿勢を維持できます。脚部ストラップは股間のかなり上までくるので、居心地が悪くならないようまっすぐにしてください。この時点で、入居者を椅子またはベッドに移乗することが可能となります。

伸筋痙攣を持つ入居者でも、*Maxi Twin* リフトで持ち上げることはできます。ただし、持ち上げる初期段階で頭部を支持することに特別な注意を払う必要があります。

- 7 入居者の移動は、常にシャーシの脚部が平行になった（閉じた）状態で移動してください。出入り口での移乗が特に容易になります。入居者は介助者の方を向くようにします。

入居者の移動 - ループスプレッダーバー

警告

入居者や介助者の足が挟まらないように、あらゆる障害物との間に十分な距離をとってください。

警告

危険な状態に陥ることのないように、移動中は入居者の髪の毛、両腕および両足を体に密着させて、指定されたグラブサポートを使用するようにしてください。

Arjo 2 点式ループバー付きループスリングを使用してください。

椅子からの持ち上げ方法

(7 ステップ)

- 1 必要に応じて入居者を前方に傾けさせます。
- 2 スリングをその縫合部 (C) が仙骨部分に届くまで、入居者の背中に沿って下にスライドさせます。
(図 1 参照)
- 3 ショルダーリングをフック (A) に取り付けます。
19 ページのクリップ/ループの取り付け (パッシブスリング) のセクションを参照してください。
- 4 取付ポイント (B) を使い、スリングの脚部ストラップを入居者の大腿部の下に回します。(図 1 参照)
- 5 **代替方法 1 ストレート脚取付**
脚部ストラップを肩と同じ側のフック (A) に取り付けます (左側のストラップは左側のフック、右側のストラップは右側のフック)。(図 1 参照) 21 ページの脚クリップ/ループの取り付け (パッシブスリング) のセクションを参照してください。
代替方法 2 クロス脚取付
リングをクロスさせて両太腿の間を通します。脚部ストラップを、リングスプレッダーバーの「反対側」のフック (A) に取り付けます。(図 1 を参照) 21 ページの脚クリップ/ループの取り付け (パッシブスリング) のセクションを参照してください。
- 6 スリングストラップが入居者の下で絡まっていないことを確認してください。

7 警告

入居者の落下を防止するため、持ち上げの開始前に、スリングのクリップあるいはループがしっかりと固定されていることを確認してください。

スリングを固定しループバーにしっかりと取り付けたら、ハンドコントロールを使ってリフト操作を行うことができます。

図 1

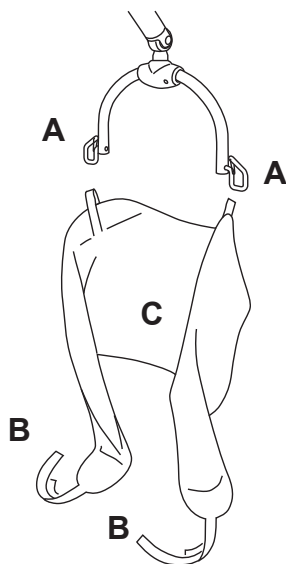
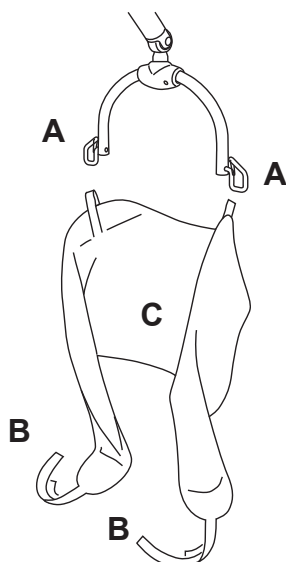


図 1



ベッドからの持ち上げ方法

(7ステップ)

- 1 スリングを病褥シートと同じように入居者の下に配置します。
- 2 ショルダーロープをフック (A) に取り付けます。
19 ページのクリップ/ロープの取り付け (パッシブスリング) のセクションを参照してください。
- 3 入居者の膝を曲げて、スリングの脚部ストラップを太腿の下に運びます。
- 4 取付ポイント (B) を使い、スリングの脚部ストラップを入居者の大腿部の下に回します。(図 1 参照)
- 5 **代替方法 1 ストレート脚取付**
脚部ストラップを肩と同じ側のフック (A) に取り付けます (左側のストラップは左側のフック、右側のストラップは右側のフック)。(図 1 参照) 21 ページの脚クリップ/ロープの取り付け (パッシブスリング) のセクションを参照してください。

代替方法 2 クロス脚取付

ロープをクロスさせて両太腿の間を通します。脚部ストラップを、ロープスプレッダーバーの「反対側」のフック (A) に取り付けます。(図 1 参照) 21 ページの脚クリップ/ロープの取り付け (パッシブスリング) のセクションを参照してください。

- 6 スリングストラップが入居者の下で絡まっていないことを確認してください。

7 **警告**

入居者の落下を防止するため、持ち上げの開始前に、スリングのクリップあるいはロープがしっかりと固定されていることを確認してください。

スリングを固定しロープバーにしっかりと取り付けたら、ハンドコントロールを使ってリフト操作を行うことができます。

床からの持ち上げ方法

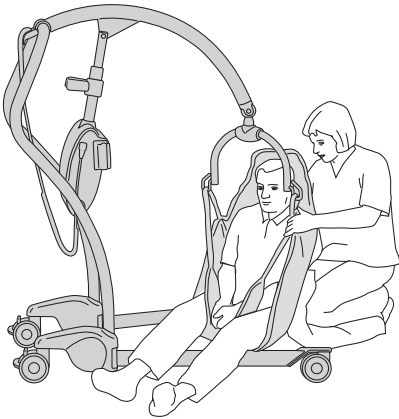
(5 ステップ)

- 1 スリングを入居者の背中に回し、スリングの脚部ストラップを適切な位置に置きます。

注意

スリングが *Maxi Twin* の脚にまとわり付いたり、引っかかったりしていないことを確認してください。これにより、持ち上げている間にスプレッダーバーが損傷することがあります。

図 1



- 2 患者の脚をシャーシの上に置いて、リフトを適切な位置まで運びます。(図 1 参照)
- 3 ジブを可能な限り低くして、ショルダーロープを取り付けます。
- 4 入居者の膝を曲げて、脚部ストラップを接続が容易になるようにします。

警告

入居者の落下を防止するため、持ち上げの開始前に、スリングのクリップあるいはループがしっかりと固定されていることを確認してください。

スリングを固定しループバーにしっかりと取り付けたら、ハンドコントロールを使ってリフト操作を行うことができます。

大型ループバーでの持ち上げ方法

(3 ステップ)

大型ループバーには、脚部ストラップ用に特別な取付フックが2つあります。(図 2 参照)

以下を除いて、一般的なループバー向けに記載されているものと同じリフティング方法に従ってください。

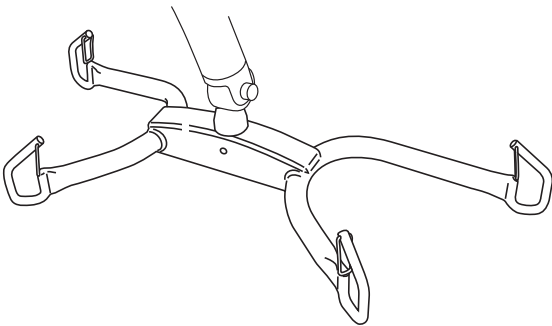
- 1 脚部ストラップは脚に近い方のフックに取り付けること。
- 2 肩に近いスリングの後側はループバーにフックされている。

警告

入居者の落下を防止するため、持ち上げの開始前に、スリングのクリップあるいはループがしっかりと固定されていることを確認してください。

スリングを固定しループバーにしっかりと取り付けたら、ハンドコントロールを使ってリフト操作を行うことができます。

図 2



在宅ケアでの使用

販売業者とレンタル業者

Maxi Twin リフトをバンでお客様にお届けする場合、以下のようにしてください。

- 輸送中にリフト が適切に固定されているか確認すること。
- リフトをバンに積んだり降ろしたりする際、ぬかるみでリフトを操作しないこと。

Maxi Twin リフトを納品する際、以下のようにします。

- 受取人（身内と介護者含む）と一緒に本取扱説明書を読むこと。
- 実物を示しながら、取扱説明書に記載されている機能と使用目的を示すこと。
- ユーザーが、クリーニングと消毒の説明を理解していること。
- 受取人に向かって警告をすべて読むこと。
- 環境は、本取扱説明書に記載の全要求事項を満たすこと。

クリーニングと消毒:

- 製品を新しいユーザーにお届けする前に、本取扱説明書に記載するクリーニング?消毒の手順を必ず実施してください。
- 何らかの整備を行う前と後に、本取扱説明書に記載するクリーニング?消毒の手順を必ず実施してください。

Maxi Twin リフトの使用

自宅で *Maxi Twin* リフトを使用する前に、以下のようにします。（図 1-3 参照）

警告

製品が傾いて、入居者が落下するのを防ぐため、排水溝や穴、1:50 (1.15°) を超える勾配があるフロアで製品を使用しないでください。

- 身内を含む介護者全員が、本取扱説明書の手順を読んで理解すること。
- 自宅のカーペットと絨毯をすべて取り除くこと。
- 自宅の段差を無くすこと。
- リフトが転げ落ちないように、階段や縁端にフェンスや安全ゲートを設けること。
- リフトを使用するのに自宅に十分なスペースがあること。

Maxi Twin リフトの保管中は、以下を実施します。

警告

窒息の危険を避けるため、本製品の近くで子どもを一人にさせないこと。

- 子どもたちがリフトで遊ばないようにする。
- ペットがリフトに触らないようにすること。
- 41 ページの技術仕様に明記された基準を満たす保管であること。

図 1

ベッドおよびリフトでの車椅子間の移乗

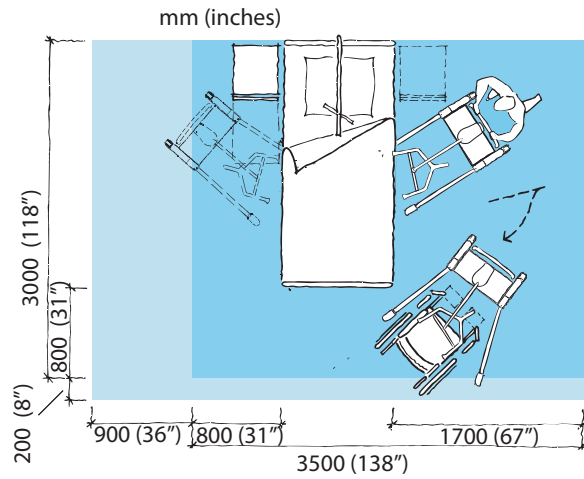


図 2

リフトでのトイレ移乗

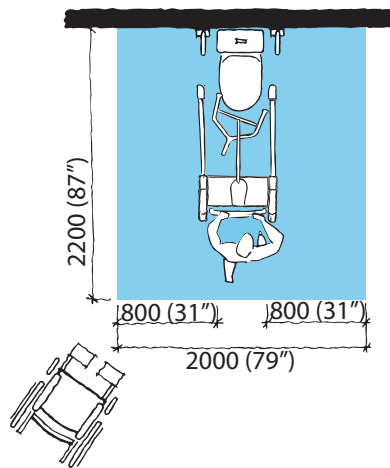
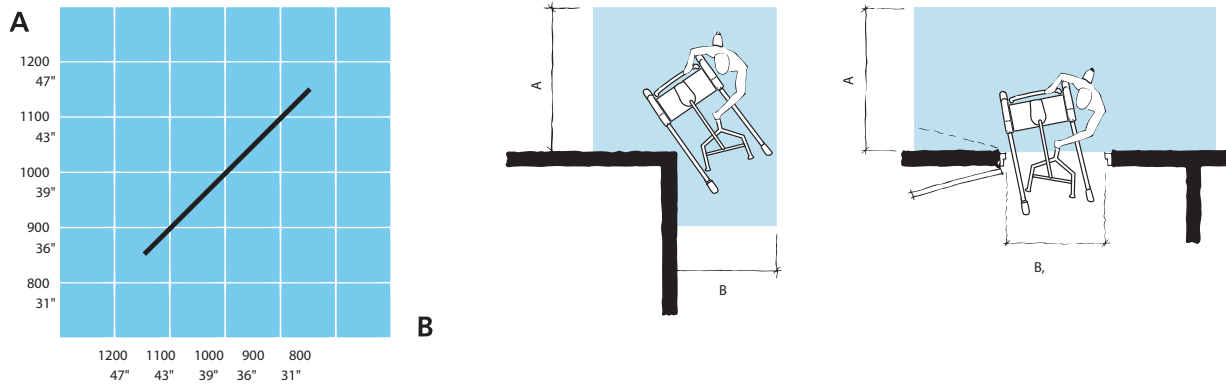


図 3



バッテリー使用上の注意

警告

怪我を防止するため、バッテリーへの衝撃、絶縁破壊、開封、分解、機械的な妨害を行わないでください。

- バッテリーケースが割れてバッテリー液が皮膚や衣類についた場合、直ちに水で洗い流してください。
- バッテリー液が目に入った場合、直ちに大量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。

バッテリーの内容物を吸引すると、呼吸器系に刺激を引き起こす可能性があります。新鮮な空気にて深呼吸し、医師の診断を受けてください。

- バッテリーを落下させないように注意してください。
- バッテリーを破棄する際、地域の地方自治体の指示に従ってください。
- バッテリーのラベルをチェックしてください。

バッテリーの保管

- バッテリーは充電された状態で納品されますが、少量の自己放電があるため、受け取ったらバッテリーを充電するようお勧めします。
- バッテリーは使用していないと徐々に放電します。
- 使用していないバッテリーは、 -0°C (32°F) から $+30^{\circ}\text{C}$ (86°F) の温度範囲で保管して下さい。
- 最大のバッテリー性能を得るには、 50°C (122°F) を超える環境でバッテリーを保管しないでください。

充電間隔

- バッテリーの寿命を長持ちさせるために、定期的（毎晩など）に充電してください。
- *Maxi Twin* リフトを頻繁に使用する場合、2個のバッテリーを使用し、1個は稼働用、もう1個は充電用とすることをお勧めします。
- 使用していないバッテリーは充電器に入れたままでもかまいません。バッテリーが過充電となることはありません。

バッテリーのサービス寿命

2つの正常に作動するバッテリーを必ず用意してください。1つは使用し、もう1つは保管用です。

充電したてのバッテリーを使った際、あまり使用していないにもかかわらず、バッテリー表示器が点滅し始め、ブザー音が鳴り始めたときは、新しいバッテリーを購入してください。

低電圧警告

バッテリーの残量が少なくなるとブザー音が鳴ります。この場合、できる限り早く再充電するようにしてください。

充電器の設置

バッテリー充電器のIFUを参照してください。

バッテリーの充電方法

バッテリー充電器のIFUを参照してください。

クリーニングおよび消毒手順

Maxi Twin リフトの消毒に関するご質問はアルジヨにお問い合わせください。

使用する消毒液の製品安全データシート (MSDS) を必ず用意してください。

警告



目や皮膚へのダメージを防ぐために、必ず保護用めがねと手袋を装着してください。万一目に入った場合、水でよく洗い流してください。目や皮膚が炎症を起こしている場合は、医師にご相談ください。消毒液の製品安全データシートを必ずお読みください。

警告

交差感染を防ぐために、常に本取扱説明書の消毒の手順に従ってください。

警告

目や皮膚の炎症を防ぐためにも、入居者がいる場所での消毒はお避けください。

注意

製品の損傷を防ぐために、アルジヨ製の消毒液を使用してください。

注意

電気部品または内部に錆などの問題の起こす恐れのある製品部分には、大量の消毒液を噴霧しないでください。

Maxi Twin の消毒用付属品

- 保護用手袋
- 保護用めがね
- 水入りスプレーボトル
- 中性洗剤入りスプレーボトル
- 消毒剤入りスプレーボトル
いずれかの互換性のある消毒薬を使用します。
 - イソプロピルアルコール ≤ 70%
 - 漂白剤 ≤ 1% (10,000 ppm)
 - 過酸化水素 ≤ 1.5%
 - 過酢酸 ≤ 0.25% (2,500 ppm)
 - フェノール ≤ 1.56% (15,600 ppm)
 - 第四級アンモニウム ≤ 0.28% (2,800 ppm)
- ドライクロスとウェットクロス
- 使い捨てタオル
- 毛先の柔らかいブラシ

クリーニングと消毒は、常に下記の10ステップに従ってください

アルジョ製のシャワーパネルを使用する場合は、それぞれの製品の取扱説明書に目を通してください。

目視できる汚れの除去（10ステップのうち1-2）

1 製品からスリングを外します。

2 洗浄

- *Maxi Twin* リフト
- 取り外したすべての部品

ウェットクロスで目に見える汚れを拭き取ります。または、水をスプレーして清潔な布で拭き取ります。洗浄は、上部から下方に向かって行います。

クリーニング（10ステップのうち3-5）

3 中性洗剤をスプレーします：

- *Maxi Twin* リフト
- 取り外したすべての部品

必要であればクリーニングのためブラシあるいは布を使用してください（堆積した汚れを除去するため）。

4 水新しいウェットクロスで、以下の部分に付いている中性洗剤を完全に拭き取ります。

- *Maxi Twin* リフト
- 取り外したすべての部品

または、場合に応じて、水でスプレーしてから清潔な布で汚れを拭き取ってください。

5 中性洗剤がすべて除去されるまで、繰り返し行います。

消毒（10ステップの6-10）

6 消毒薬をスプレーします：

- *Maxi Twin* リフト
- 取り外したすべての部品

注記

低床キャスターは（機器に搭載されている場合）、漂白剤や過酸化水素と繰り返し使用すると、僅かに汚れる可能性があります。

注記

過酢酸を繰り返し接触すると、アクチュエータが変色する場合があります。

7 消毒液容器のラベルに記載された指示に従って、消毒時間を計測してください。

8 水に濡らした新しい布で、以下の部分に付いている消毒薬を完全に拭き取ります。

- *Maxi Twin* リフト
- 取り外したすべての部品

または、場合に応じて、水でスプレーしてから清潔な布で汚れを拭き取ってください。

9 消毒液を除去できない部分がある場合、水をスプレーして、使い捨てのタオルで拭きます。消毒液がすべて除去できるまで、繰り返し行います。

10 すべての部品を乾燥させます。

お手入れと定期保守・点検

Maxi Twin リフトは消耗するものであり、製品がメーカー仕様を維持するようにと明記してある場合、以下の措置を講じる必要があります。

警告

傷害事故をもたらす不具合を防止するため、定期的な点検を実施し、推奨保守スケジュールに従ってください。製品が酷使されている場合、あるいは苛酷な環境にさらされている場合、さらに頻繁な点検を実施してください。地域の規制や地方自治体の基準が、推奨保守計画よりも厳格な場合があります。

注記

患者に使用している間は、製品のメンテナンスや修理をすることはできません。

保守・点検メンテナンス計画

介助者の義務である措置 / チェック	毎日	毎週
消毒	X	
スリングの目視点検	X	
充電済みバッテリーとの交換	X	
露出部品すべての目視点検		X
機械式アタッチメントの目視点検		X
ハンドコントロールとケーブルのチェック		X
キャスターのチェックと清掃		X
ブレーキ機能のチェック		X
バッテリー充電器とバッテリーの目視点検		X
機能試験の実施		X

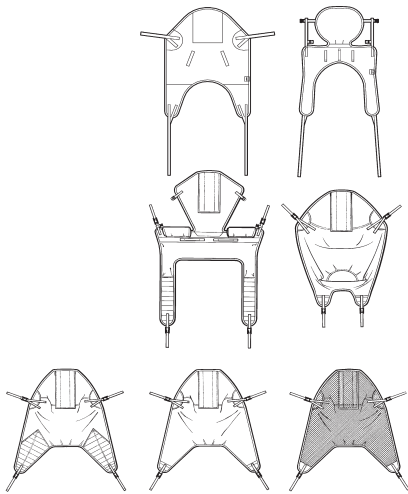
警告

入居者や介助者の怪我を防ぐため、製品を改修したり、互換性のない部品を使用しないでください。

介助者の義務

本取扱説明書の手順に従い、*Maxi Twin* に関する十分な知識を持った担当者によって、介助者の義務を実施してください。

図 1



毎日

- *Maxi Twin* リフトを消毒します。*Maxi Twin* リフトは使用後ただちに洗浄しなければなりません。Arjo 洗浄剤を奨励濃度で使用すること。

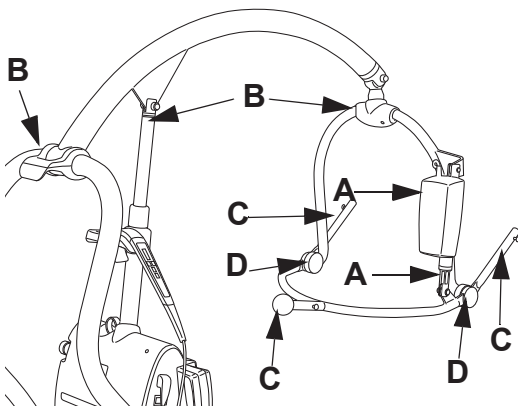
- スリングの目視点検を行う。摩損、穴、縫い目のほつれ、プラスチッククリップの損傷をチェックすること。スリングが何らかの形で損傷している場合、直ちに使用を停止し、スリングを交換してください。(図 1 参照)

- 毎日使用を開始する時には、充電済みのバッテリーを使用してください。

毎週

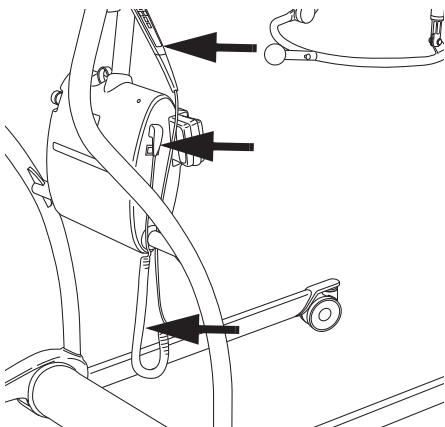
- 露出部品、特に入居者や介助者が触る部品の目視点検を行ってください。入居者やユーザーがケガをしたり、非衛生状態になる恐れのある、亀裂が生じたり鋭利な端になっていたりしていないか確認すること。損傷した部品は交換してください。

図 2



- 全ての機械部品を目視点検してください。アクチュエーター (A) のアタッチメント、およびジブとスプレッダーバー (B) 間のアタッチメントを目視点検を行ってください。スリングアタッチメントノブ (C) が損傷していないか、目視点検を行ってください。たとえば突き出ているプラスチック (D) など、損傷するおそれのあるスプレッダーバーピボットを確認してください。(図 2 参照)

図 3



- ハンドコントロールとコード: ハンドコントロールとケーブルの状態を目視点検を行う。切り口、損傷、配線の露出などが見つかったら、交換すること。(図 3 参照)

図 4

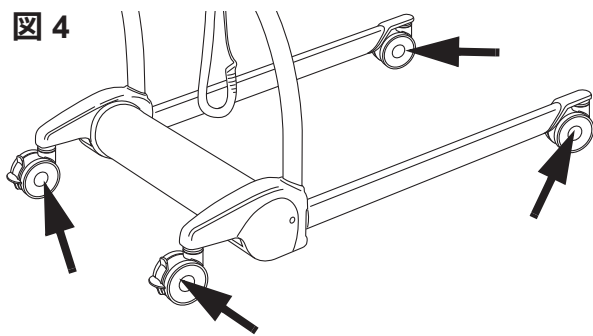
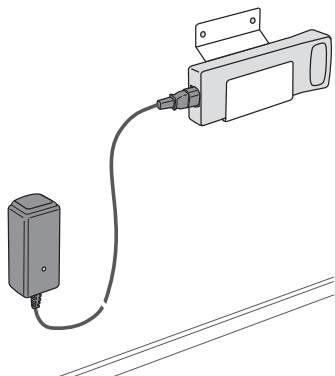


図 5



- キャスターが適切に固定され、滑らかに回転?旋回するかチェックを行う。水で洗うこと。(床をクリーニングした際の洗剤、髪の毛、ホコリ、化学薬品などが原因で、機能に影響が及ぶおそれがあります。)ブレーキ機能のチェック。(図 4 参照)

- バッテリーチャージャー、ケーブル、バッテリーの状態の目視点検を行う。損傷している場合、直ちに取り外して交換します。(図 5 参照)

- 昇降させて全機能テストを実施する。スプレッダーバーの動きおよびレッグの開閉機能をテストする。全機能が逸脱することなく、想定どおりに機能すること。

毎年

メンテナンス計画（有資格者による措置 / チェック）に基づき、*Maxi Twin* リフトの点検を行います。

警告

怪我の防止及び製品を安全に使用するため、正しい工具、部品及び手順の知識を有する、有資格担当者により適切な頻度でメンテナンス作業を実施しなければなりません。有資格担当者は、本製品の研修履歴を記録する必要があります。

有資格担当者による措置 / チェック	毎年
最新のアップグレードされた部品になっているかチェックする	X
重要な部品の腐食と損傷をチェック	X
機械式アタッチメントのチェック	X
安全耐荷重テストの実施（国内要求事項）	X
全アクチュエータの機能と範囲のチェック	X
スプレッダーバーの可動部品のチェック	X
非常口アリングの機能チェック	X
非常停止の機能チェック	X
安全停止機能のチェック	X
キャストのチェック / 交換	X
バッテリーのチェック	X
全ての機能テスト	X

注記


すべての介助者は有資格担当者によるサービスの実施時、適切に行われたか確認してください。

トラブルシューティング

想定される問題	措置
ハンドコントロールボタンから手を放した後もリフトが昇降する。	赤色の非常停止ボタンを押し、バッテリーを取り外す - リフトから入居者を降ろし、有資格者による点検を依頼する。
ハンドコントロールボタンを押しても、リフトが昇降しない。	<ol style="list-style-type: none"> 1 バッテリーが完全にバッテリーコンパートメントに接続されているか確認する。 2 ハンドコントロール接続プラグがコンセントに正しく差し込まれているか確認する。 3 バッテリーが充電されているか確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>警告 怪我を防ぐため、入居者を一人にしないでください。</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> 4 赤色ノブを時計方向に回してみ、非常停止ボタンが作動しないようになっているか確認する。 5 非常口アリングで入居者を降ろす。紫色のリングを引っ張って起動する。リングから手を放すと動きが止まる - リフトから入所者を降ろしたら、直ちに有資格者による点検を依頼する。
移動中、リフトの操作が困難である。	<ol style="list-style-type: none"> 1 全ブレーキが解放されているか確認する。 全キャスターが回転および旋回するか確認する。 入居者をリフトから降ろして、有資格担当者へ連絡する。
持ち上げや移乗時、リフトから異音がある。	入居者をリフトから降ろして、有資格担当者へ連絡する。
リフトを降ろすことしかできない。	本製品の昇降装置は安全ナットがついています。安全ナットが作動した場合、本製品は安全な位置まで降下することしかできません。このような場合、製品の使用をやめて、有資格担当者に連絡してください。

アラーム	措置
リフトが上昇するとブザーが鳴る	バッテリーの充電が必要 - 途中の移乗作業を速やかに終わらせ、充電済みのバッテリーに交換する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>警告 怪我を防ぐため、入居者を一人にしないでください。</p> </div>
リフトを下降 / 上昇させると、あるいはスプレッダーバーがシッティングポジションに移動すると、リフトが停止する。	固定物にぶつかりリフトが下降 / 上昇された。慎重にリフトを上昇 / 下降させて、リフトの位置を元に戻す。
バッテリー表示器が点滅しブザーが鳴る前は、数回のみ使用しただけである。	バッテリーを、完全に充電されたものと交換してください。 充電したてのバッテリーを使った際、あまり使用していないにもかかわらず、バッテリー表示器が点滅し始め、ブザー音が鳴り始めたときは、新しいバッテリーを購入してください。

技術仕様

Maxi Twin	
安全耐荷重 (SWL) (患者の最大体重、スプレッダーバーに関係せず)	182 kg (400 lbs.)
カラー	灰色
ヘルスケア・福祉機器	BF タイプ 
音量	49 dB (A)
操作モード	ED 最大 10%、最大 2 分 ON、最小 18 分 OFF
コントロールの操作力	2.7 N
耐火等級	EN 60601-1 規格に準拠。
汚染度	2

製品重量	
Maxi Twin リフト (体重計、ハンガーバーまたはバッテリーなし)	45.5 kg (100 lbs.)
Maxi Twin リフトおよび体重計 (ハンガーバーまたはバッテリーなし)	48.5 kg (107 lbs.)
最大合計重量 (リフトと患者)	240 kg (526 lbs.)
電動 DPS ハンガーバー	8 kg (15,2 lbs.)
手動 DPS ハンガーバー	5 kg (11 lbs.)
小型ループハンガー	1.7 Kg (3,7 lbs.)
中型ループハンガー	1.9 kg (4,2 lbs.)
大型ループハンガー	2.8 kg (6,2 lbs.)
バッテリー	1.5 kg (3,3 lbs.)

使用可能な組合せ	
Maxi Twin リフトは、以下の Arjo 製品と共に使用できます：	Maxi Twin 体重計、 Carendo、 Carino、 Rhapsody/Primo、 Concerto、 Prelude、 Malibu、 Parker、 手動 DPS 中型、 電動 DPS 中型、 2 点式 スプレッダーバー小型、 2 点式 スプレッダーバー中型、 4 点式 スプレッダーバー大型、
その他の組合せは使用できません。	

動作、輸送および保管	
周囲温度の範囲	操作 +10 °C ~ +40 °C (+50 °F ~ 104 °F) 輸送と保管 -20 °C ~ +70 °C (-4 °F ~ +158 °F)
相対湿度の範囲	30% - 75%、動作時 10% - 80%、輸送及び保管時
大気圧の範囲	800 - 1060 hPa、動作時 500 - 1100 hPa、輸送および保管時

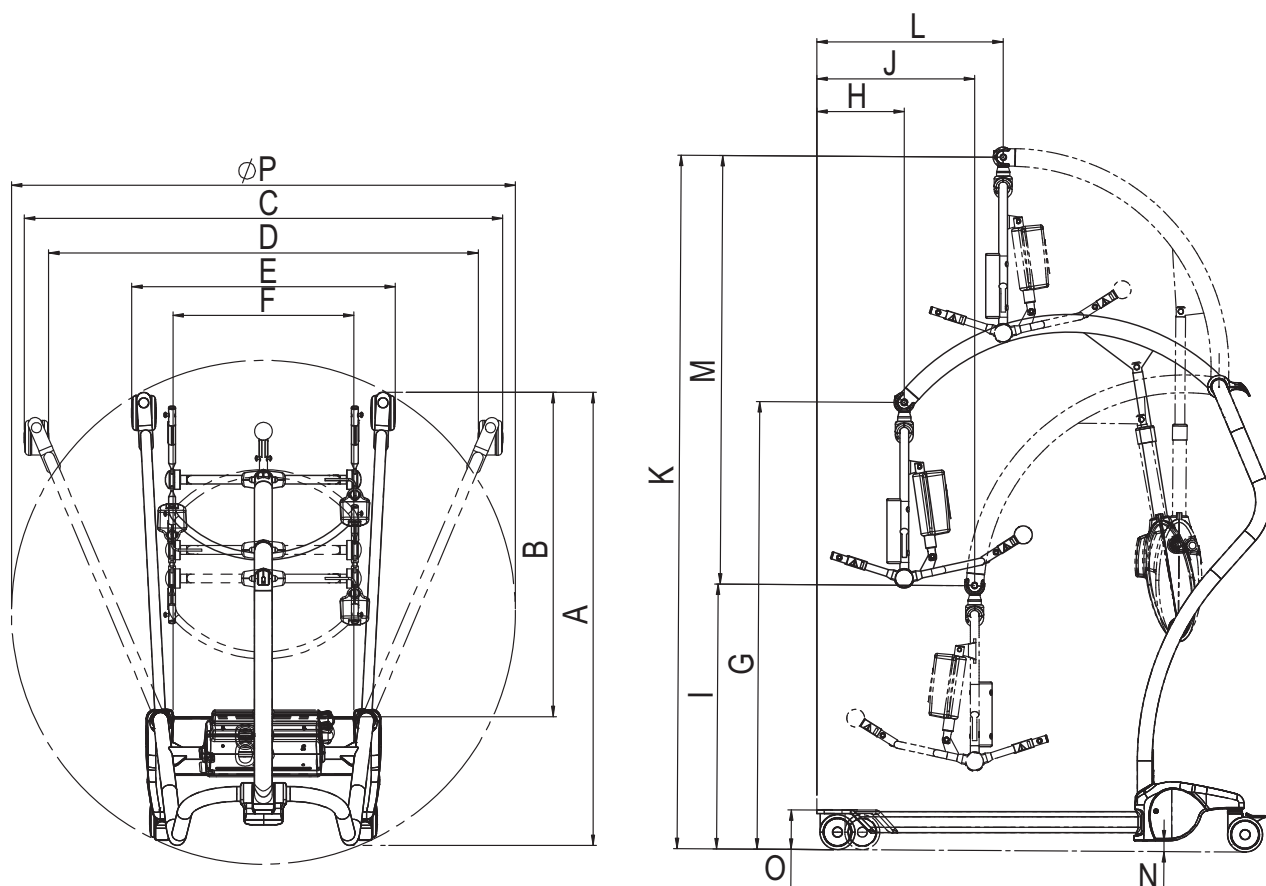
電気系	
バッテリー	Arjo NEA 0100
バッテリー充電器	機種 No. : NEA 8000
製品電圧	24 V DC
保護等級	IP 24 IP : 防水防塵保護等級 2 : 指などの物体の挿入に対する保護。 4 : 本製品にどこから水がかかった場合でも、安全性や基本性能に影響はありません
ハンドコントロール保護等級	IP X7 IP : 防水防塵保護等級 X : 物体の接触や侵入に対する保護は、本製品について規定されていません。 7 : 1メートルまでの浸水であれば、製品の安全性や基本性能に影響はありません。
ヒューズ	F1 F10AL 250 V
ヒューズ	F2 T4AL 250 V

リサイクル	
梱包	木材と段ボール箱、リサイクル可

耐用年数後の廃棄方法	
<ul style="list-style-type: none"> 製品に付属しているすべてのバッテリーは別々にリサイクルしなければなりません。バッテリーは、国または地方条例に従って廃棄してください。 補強材、安定材、緩衝材およびその他の繊維またはポリマー、プラスチック材等を含むスリングは、可燃性廃棄物に分類してください。 電気および電子部品または電気コードがあるリフト関連製品は、電気・電子機器の廃棄 (WEEE) または地方自治体あるいは国の法令に従って分解し、リサイクルしてください。 スリングバー、レール、レール保持部材のような主にさまざまな金属で構成される部品 (重量で 90% 以上が金属) は、金属としてリサイクルしてください。 	

寸法

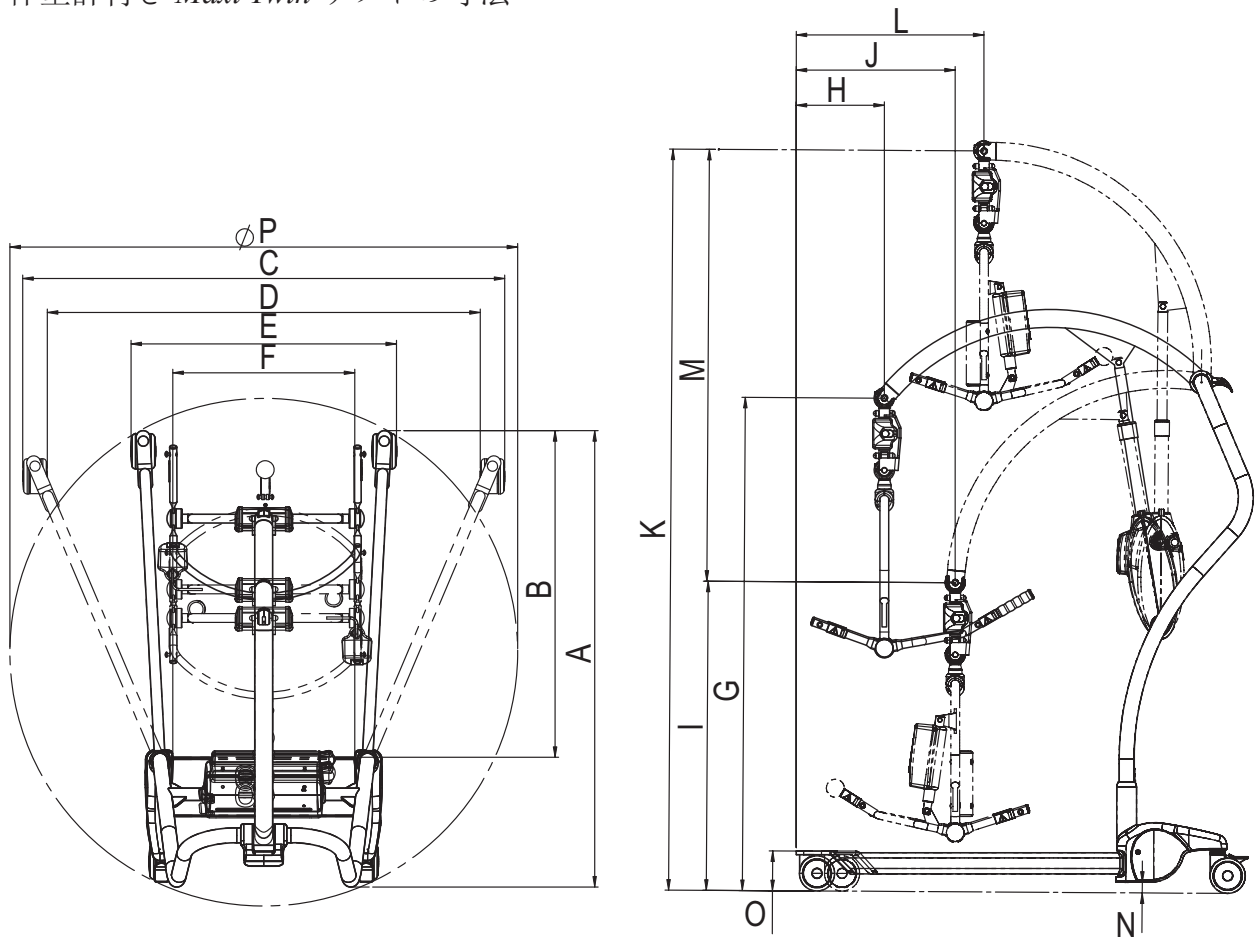
Maxi Twin リフトの寸法



C.S.P = Central Suspension Point (中央吊り下げ点)

参照	注記	寸法 (mm)
A	最大外寸法	1298
B	最大内寸法	929
C	最大外幅	1371
D	最大内幅	1231
E	最小外幅	755
F	最小内幅	518
G	最大ホイストリーチ時の CSP 高さ	1281
H	最大ホイストリーチ	250
I	最小 CSP 高さ	758
J	最小 CSP 高さ時のホイストリーチ	452
K	最大 CSP 高さ	1985
L	最大 CSP 高さ時のホイストリーチ	533
M	ホイスト範囲	1227
N	最小クリアランス	31
O	最大高さ (標準キャスター)	113
P	回転直径寸法	1444

体重計付き *Maxi Twin* リフトの寸法


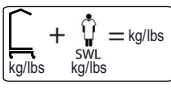

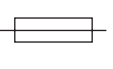






C.S.P = Central Suspension Point (中央吊り下げ点)

参照	注記	寸法 (mm)
A	最大外寸法	1298
B	最大内寸法	929
C	最大外幅	1371
D	最大内幅	1231
E	最小外幅	755
F	最小内幅	518
G	最大ホイストリーチ時の CSP 高さ	1401
H	最大ホイストリーチ	250
I	最小 CSP 高さ	878
J	最小 CSP 高さ時のホイストリーチ	452
K	最大 CSP 高さ	2105
L	最大 CSP 高さ時のホイストリーチ	533
M	ホイスト範囲	1227
N	最小クリアランス	31
O	最大高さ (標準キャスター)	113
P	回転直径寸法	1444

Maxi Twin 上のラベル

日付ラベルには、以下の情報が表示されています。

	警告
SWL	安全耐荷重（本製品の安全な最大定格耐荷重を表します。）
	機器の全重量。安全使用荷重を含む。
	持ち上げストローク長
24V DC	供給電圧
MAX: 200 VA	最大電力
	ヒューズ F1 F10AL 250 V ヒューズ F2 T4AL 250 V
IP 24	保護等級（具体的には、指の挿入や、水の飛散に対する製品の保護等）
	BF タイプ 適用部品: EN/IEC 60601-1 に基づく感電に対する保護。
2 min on/ 18 min off	高 / 低機能の操作モード: 最大 2 分 ON ; 最小 18 分 OFF
NEA0100-083 24Vdc 2.5 Ah	バッテリーの製品番号および製造日。
	使用前に、取扱説明書をお読みください
	欧州指令 2012/19/EU (WEEE) に基づく、リサイクル用電気及び電子コンポーネントの分別。
	欧州共同体統一法への適合を示す CE マーキング。 図は、監督認証機関のトレードマークです。

	本製品が EU 医療機器規制 2017/745 に準拠した医療機器であることを示します。
	TÜV マーク。リフトは、承認?基準リストや、保護等級に従って安全性テストを受けています。
	バッテリーは本製品の主電源です。
	環境危険 破棄対象品ではありません。
	リサイクル可
	製造元の名称及び住所
	製造日
	機器固有識別子 (UDI)

識別ラベル

識別ラベルには製品機種名とシリアル番号（図を参照）が表示されています。

スリング範囲ラベル

サイズと安全耐荷重をカラーで素早く識別できるように、スプレッダーバーフレームに貼り付けています。

注意ラベル

スプレッダーバーフレームに、「浴室やシャワーに不適合」と表示。

クリップ手順ラベル

クリップを接続するノブの近く、およびスプレッダーバーアクチュエータに貼り付けたラベル。

バッテリー表示器ラベル

バッテリーハウジングにあり、バッテリー充電が必要なことを示します。

非常ロアリングラベル

非常ロアリングのコントロール近くに張り付けてあります。



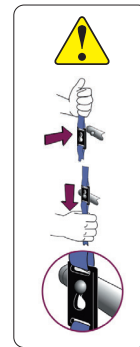
非常ロアリングラベル



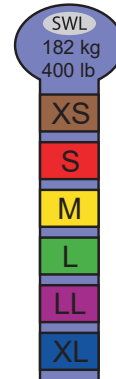
クリップ手順ラベル



水位マーク



スリング範囲ラベル



バッテリーインジケータラベル

ブランド名

製品名

バッテリーラベル

データラベル

識別ラベル

意図的に空白のままに

電磁両立性

本製品は、外部環境から EMI（電磁干渉）を遮断する能力に関して、現行の規制基準への準拠がテストされています。

一部手順は電磁干渉の軽減に役立ちます。

- 機器の正しい機能を損ないかねない、放射の増加あるいは耐性の減少を回避するため、Arjo ケーブルおよび予備部品だけを使用してください。
- 患者様のモニタリングおよび / または生命維持装置などが、電磁エミッション規格に準拠しているか確認してください。

警告

無線コンピュータネットワーク装置、携帯電話、コードレス電話およびその基地局、トランシーバーなどの無線通信機器は、本製品に影響を与えることがあるため、製品から少なくとも 1.5m の間隔を置いて配置する必要があります。


意図された環境：在宅医療環境および専門医療施設環境

例外：磁気共鳴映像法用 ME システムの高周波手術器具および RF シールドルーム

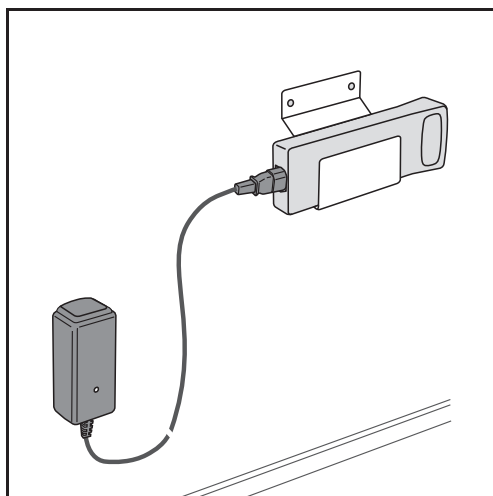
警告

本製品を他の機器に隣接して、または他の機器と積み重ねて使用すると、誤作動することがあります。このような使用法が必要な場合、本製品と他の機器を観察して、正常に作動しているか、まず確認してください。

ガイダンスとメーカーの宣言 - 電磁界エミッション		
エミッション試験	コンプライアンス	ガイダンス
RF 放射 CISPR 11	グループ 1	本製品は RF エネルギーをその内部機能のためにのみ使用します。従って、その RF エミッションは非常に低いいため、近隣の電気機器に影響を及ぼしにくくなっています。
RF 放射 CISPR 11	クラス B	本製品は家庭用施設、および家庭用に使われる建物に供給する公共低電圧電力供給ネットワークに直接接続されたものを含む、あらゆる施設での使用に適しています。

ガイドランスとメーカー宣言 - 電磁耐性			
イミュニティ試験	IEC 60601-1-2 試験レベル	コンプライアンスレベル	電磁環境 - ガイドランス
静電気放電 (ESD) EN 61000-4-2	±2kV、±4kV、±8kV、±15kV 気中 ±8kV 接触	±2kV、±4kV、±8kV、±15kV 気中 ±8kV 接触	床はフローリング、コンクリートあるいはセラミックタイルにしてください。床が合成材に変更された場合、相対湿度は最低 30% にしなければなりません。
RF 場により惹起された電動妨害 EN 61000-4-6	0.15 MHz ~ 80 MHz において 3V 0.15 MHz ~ 80 MHz 間の ISM およびアマチュア無線周波数帯において 6V 80% AM、1 kHz にて	0.15 MHz ~ 80 MHz において 3V 0.15 MHz ~ 80 MHz 間の ISM およびアマチュア無線周波数帯において 6V 80% AM、1 kHz にて	通信機の実地調査で判定される通り、固定 RF 発信機から磁界強度 1W ^a を超過する場合、携帯及びモバイル RF 通信機器は、ケーブルを含めて本製品のあらゆる部分から 1.0 メートルより近くで使用すべきではありません。固定 RF 送信機からのフィールド強度は、電磁サイト調査によって決定されている通り、各周波数範囲 ^b のコンプライアンスレベルよりも少ない値にしなければなりません。
放射 RF 電磁場 EN 61000-4-3	在宅医療環境 10 V/m 80 MHz ~ 2.7 GHz 80% AM、1 kHz にて	在宅医療環境 10 V/m 80 MHz ~ 2.7 GHz 80% AM、1 kHz にて	この記号が記された機器の近くでは、干渉が生じる可能性があります。 
RF 無線通信機器の近接フィールド EN 61000-4-3	385 MHz - 27 V/m 450 MHz - 28 V/m 710, 745, 780 MHz - 9V/m 810, 870, 930 MHz - 28 V/m 1720, 1845, 1970, 2450 MHz - 28 V/m 5240, 5500, 5785 MHz - 9V/m	385 MHz - 27 V/m 450 MHz - 28 V/m 710, 745, 780 MHz - 9V/m 810, 870, 930 MHz - 28 V/m 1720, 1845, 1970, 2450 MHz - 28 V/m 5240, 5500, 5785 MHz - 9V/m	
電氣的ファースト?トランジェント/バースト EN 61000-4-4	±1kV SIP/SOP ポート 100 kHz 繰返し周波数	±1kV SIP/SOP ポート 100 kHz 繰返し周波数	
電力周波数磁界 EN 61000-4-8	30 A/m 50 Hz または 60 Hz	30 A/m 50 Hz	電力周波数磁界は、一般商用または病院環境での典型的な場所での特性レベルである必要があります。

部品とアクセサリ



バッテリーおよび充電器



写真なし

スリング
最寄りの代理店までご連絡ください。

AUSTRALIA

Arjo Australia
 Building B, Level 3
 11 Talavera Road
 Macquarie Park, NSW, 2113,
 Australia
 Phone: 1800 072 040

BELGIQUE / BELGIË

Arjo Belgium
 Evenbroekveld 16
 9420 Erpe-Mere
 Phone: +32 (0) 53 60 73 80
 Fax: +32 (0) 53 60 73 81
 E-mail: info.belgium@arjo.com

BRASIL

Arjo Brasil Equipamentos Médicos Ltda
 Rua Marina Ciufuli Zanfelice, 329 PB02
 Galpão - Lapa
 São Paulo – SP – Brasil
 CEP: 05040-000
 Phone: 55-11-3588-5088
 E-mail: vendas.latam@arjo.com
 E-mail: servicios.latam@arjo.com

CANADA

Arjo Canada Inc.
 90 Matheson Boulevard West
 Suite 350
 CA-MISSISSAUGA, ON, L5R 3R3
 Tel/Tél: +1 (905) 238-7880
 Free: +1 (800) 665-4831
 Fax: +1 (905) 238-7881
 E-mail: info.canada@arjo.com

ČESKÁ REPUBLIKA

Arjo Czech Republic s.r.o.
 Na Strži 1702/65
 140 00 Praha
 Czech Republic
 Phone No: +420225092307
 E-mail: info.cz@arjo.com

DANMARK

Arjo A/S
 Vassingerødvej 52
 DK-3540 LYNGE
 Tel: +45 49 13 84 86
 Fax: +45 49 13 84 87
 E-mail: dk_kundeservice@arjo.com

DEUTSCHLAND

Arjo GmbH
 Peter-Sander-Strasse 10
 DE-55252 MAINZ-KASTEL
 Tel: +49 (0) 6134 186 0
 Fax: +49 (0) 6134 186 160
 E-mail: info-de@arjo.com

ESPAÑA

ARJO IBERIA S.L.
 Poligono Can Salvatella
 c/ Cabanyes 1-7
 08210 Barberà del Valles
 Barcelona - Spain
 Telefono 1: +34 900 921 850
 Telefono 2: +34 931 315 999

FRANCE

Arjo SAS
 2 Avenue Alcide de Gasperi
 CS 70133
 FR-59436 RONCQ CEDEX
 Tél: +33 (0) 3 20 28 13 13
 Fax: +33 (0) 3 20 28 13 14
 E-mail: info.france@arjo.com

HONG KONG

Arjo Hong Kong Limited
 Room 411-414, 4/F, Manhattan Centre,
 8 Kwai Cheong Road, Kwai Chung, N.T.,
 HONG KONG
 Tel: +852 2960 7600
 Fax: +852 2960 1711

ITALIA

Arjo Italia S.p.A.
 Via Giacomo Peroni 400-402
 IT-00131 ROMA
 Tel: +39 (0) 6 87426211
 Fax: +39 (0) 6 87426222
 E-mail: Italy.promo@arjo.com

MIDDLE EAST

Arjo Middle East FZ-LLC
 Office 908, 9th Floor,
 HQ Building, North Tower,
 Dubai Science Park,
 Al Barsha South
 P.O. Box 11488, Dubai,
 United Arab Emirates
 Direct +971 487 48053
 Fax +971 487 48072
 Email: Info.ME@arjo.com

NEDERLAND

Arjo Nederland BV
 Biezenwei 21
 4004 MB TIEL
 Postbus 6116
 4000 HC TIEL
 Tel: +31 (0) 344 64 08 00
 Fax: +31 (0) 344 64 08 85
 E-mail: info.nl@arjo.com

NEW ZEALAND

Arjo Ltd
 34 Vestey Drive
 Mount Wellington
 NZ-AUCKLAND 1060
 Tel: +64 (0) 9 573 5344
 Free Call: 0800 000 151
 Fax: +64 (0) 9 573 5384
 E-mail: nz.info@Arjo.com

NORGE

Arjo Norway AS
 Olaf Helsets vei 5
 N-0694 OSLO
 Tel: +47 22 08 00 50
 Faks: +47 22 08 00 51
 E-mail: no.kundeservice@arjo.com

ÖSTERREICH

Arjo Austria GmbH
 Lemböckgasse 49 / Stiege A / 4.OG
 A-1230 Wien
 Tel: +43 1 8 66 56
 Fax: +43 1 866 56 7000

POLSKA

Arjo Polska Sp. z o.o.
 ul. Ks Piotra Wawrzyniaka 2
 PL-62-052 KOMORNIKI (Poznań)
 Tel: +48 61 662 15 50
 Fax: +48 61 662 15 90
 E-mail: arjo@arjo.com

PORTUGAL

Arjo em Portugal
 MAQUET Portugal, Lda.
 (Distribuidor Exclusivo)
 Rua Poeta Bocage n.º 2 - 2G
 PT-1600-233 Lisboa
 Tel: +351 214 189 815
 Fax: +351 214 177 413
 E-mail: Portugal@arjo.com

SUISSE / SCHWEIZ

Arjo Switzerland AG
 Fabrikstrasse 8
 Postfach
 CH-4614 HÄGENDORF
 Tél/Tel: +41 (0) 61 337 97 77
 Fax: +41 (0) 61 311 97 42

SUOMI

Arjo Scandinavia AB
 Riihitontuntie 7 C
 02200 Espoo
 Finland
 Puh: +358 9 6824 1260
 E-mail: Asiakaspalvelu.finland@arjo.com

SVERIGE

Arjo International HQ
 Hans Michelsensgatan 10
 SE-211 20 MALMÖ
 Tel: +46 (0) 10 494 7760
 Fax: +46 (0) 10 494 7761
 E-mail: kundservice@arjo.com

UNITED KINGDOM

Arjo UK and Ireland
 Houghton Hall Park
 Houghton Regis
 UK-DUNSTABLE LU5 5XF
 Tel: +44 (0) 1582 745 700
 Fax: +44 (0) 1582 745 745
 E-mail: sales.admin@arjo.com

USA

Arjo Inc.
 2349 W Lake Street Suite 250
 US-Addison, IL 60101
 Tel: +1 (630) 307-2756
 Free: +1 (800) 323-1245
 Fax: +1 (630) 307 6195
 E-mail: us.info@arjo.com

JAPAN

Arjo Japan K.K.
 東京都港区虎ノ門三丁目7番8号
 ランディック第2 虎ノ門ビル9 階
 Tel: +81 (0)3-6435-6401
 Fax: +81 (0)3-6435-6402
 E-mail: info.japan@arjo.com

At Arjo, we are committed to improving the everyday lives of people affected by reduced mobility and age-related health challenges. With products and solutions that ensure ergonomic patient handling, personal hygiene, disinfection, diagnostics, and the effective prevention of pressure ulcers and venous thromboembolism, we help professionals across care environments to continually raise the standard of safe and dignified care. Everything we do, we do with people in mind.



ArjoHuntleigh AB
Hans Michelsensgatan 10
211 20 Malmö, Sweden
www.arjo.com

arjo

CE
2797